

国立国語研究所学術情報リポジトリ

日本語でだいじょうぶ 利用の手引き

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-02-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所日本語教育教材開発室 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003132

日本語教育映像教材 初級編

日本語でだいじょうぶ

利 用 の 手 引 き

(全4ユニット)

国立国語研究所
日本語教育教材開発室

(配布用資料)

日本語でだいじょうぶ

利 用 の 手 引 き

(全4ユニット)

〈 目 次 〉

日本語教育映像教材初級編「日本語でだいじょうぶ」について	1
初級編「日本語でだいじょうぶ」の教材体系	2
初級編「日本語でだいじょうぶ」の使用方法	3
作成関係者	4
{別表1} ユニット別セグメント一覧	5
{別表2} ストーリー別セグメント一覧	6
ストーリー展開と人物	7
ユニット 1 「よろしくお願ひします」	11
ユニット 2 「よくわかりました」	25
ユニット 3 「とてもいいですね」	36
ユニット 4 「また会いましょう」	47

日本語教育映像教材初級編「日本語でだいじょうぶ」について

日本語教育映像教材初級編「日本語でだいじょうぶ」は、外国語として日本語を学ぶ方のために作成されました。この教材は、初級段階の学習者が、対人コミュニケーションの実際的な学習を行う際に使用することを最も主な目的として作成されていますが、音声・映像をさまざまな角度から利用することにより、言語体系知識の確認のために使用したり、中上級レベルの学習者の談話運用のモデルとして使用するなど、より広い範囲の目的および学習レベルに合わせて、利用することができます。

言語体系の習得から運用の訓練へ 外国語学習において学習者が習得しなければならない知識・能力はさまざまな方面にわたります。大きく分けて、言語体系に関する知識を用いて正しい文を生成する能力と、それを活用してコミュニケーションという社会的行動を行う能力とが、そこには含まれると考えられます。近年の日本語教育の中では、文法・構造シラバスによる言語体系知識の獲得にとどまることなく、場面状況の意識や相手による待遇表現の使い分け、さらに、言語を手段として自分の目的を達成する総合的なコミュニケーション能力の獲得を目指す方向がますます明確になります。

映像教材の役割 総合的な伝達能力に向けての学習のためには、ことばが使われる状況やことばを用いる際の表情・音調といった非言語的な要素にも目を向ける必要があり、そうした要因を教科書等の文字教材によって設定・提示することは困難です。文字教材の重要性が減じることはないとしても、さまざまな場面を擬似体験できる映像教材を有効に利用することによって現実の場面での言語運用の経験を教室活動に取り入れていくことは、今後さらに活発に行われるべきです。

国立国語研究所では、これまでに、初級段階の映像教材として『日本語教育映画基礎編（全30巻）』、中級段階の映像教材として『日本語教育映像教材中級編（全24セグメント）』を作成しています。これらのうち、『基礎編』は、初級段階で導入される文型を用いた会話を映像化したもので、言語体系的知識を実際の運用場面に応用するための橋渡しの役割を持つものです。一方、『中級編』は、中級以上の段階で、実際の場面で使用される種々の言語形式を対人的機能の観点から整理したもので、場面の条件に応じて、共通する機能を持つ複数の表現形式の中から適切なものを見び出す訓練に役立てるために作成されました。

それらに対して、この『日本語教育映像教材初級編「日本語でだいじょうぶ」』は、日本語の構造的側面を実際の言語使用の中で確認すること、さまざまな場面の中でことばが担う機能の面についての例を提示すること、さらに、社会・文化的な観点から見て適切な言語行動を考えるための手がかりを提供すること、の三つの側面から構成されています。この『初級編』は、『基礎編』による構造的知識の習得と、『中級編』による表現選択の訓練との間にあるもので、その効果的な利用によって、言語構造中心の学習にも、言語形式の機能、概念、言語的および非言語的伝達手段、待遇行動など、実際の言語使用で関わってくる諸要因を中心とした学習にも、さらに、種々の場面とそこで遂行されるタスクを中心とした学習にも、それぞれ対応する学習内容を設定することができ、学習者の伝達能力の全般をかたよりなく高めていくことができます。

なお、このような考え方の背景となる「多次元シラバス」の理念は、『初級編』シリーズの一環として作成される解説書の中でくわしく紹介される予定です。

初級編「日本語でだいじょうぶ」の教材体系

日本語教育映像教材初級編「日本語でだいじょうぶ」は、ビデオテープによって提供される映像と、あわせて刊行される解説書類とからなっています。

ユニットとセグメント 『初級編』の本体である映像は、四つの“ユニット”に大きく分かれています。各ユニットの長さは約30分です。それぞれのユニットの内部は、10の“セグメント”に分かれしており、各セグメントの長さは平均3分です。

映像は、ユニットごとに制作され、発売されています。なお、商品形態としては、各ユニットを前半・後半各5セグメントずつに分割し、それぞれ上・下として発売します。

全4ユニットとそれぞれのユニットに含まれる計40セグメントの内容は《別表1》のとおりです。

ストーリー 四つのユニットを通して、それぞれある登場人物を主人公とする四つのストーリーが展開します。別表1の中で〔I(a)〕のように示されているのは、それぞれのセグメントが該当するストーリーとその中の順序です。四つのストーリーとそれに含まれるセグメントは《別表2》のとおりです。

四つのストーリーの他に、各ユニットにつき、「映像素材」と呼ぶセグメントを設けました。これらは、映像の中で話されることばではなく、映像に現れる事物の視覚像そのものを利用して、それらを言語化したり、そこから得た情報に基づいて教室活動を展開することを意図して、作成されています。映像素材に当たるセグメントは《別表2》のとおりです。

解説書・関連教材 映像をおさめたビデオテープの他に、『初級編』を活用するために必要な解説書および関連教材が作成されます。現在のところ、その内容は確定していませんが、次のようなものが含まれる予定です。

シナリオ この「利用の手引き」に、各ユニットのシナリオが掲載されていますが、全4ユニットを1冊にまとめたさらに詳細なシナリオを刊行します。

語彙表 同じく、全ユニットを通しての語彙表を刊行します。

学習項目一覧表 初級段階で学習者に提示される学習項目の一覧表を作成します。その内容は、語彙・文法的事項と、言語運用上の能力にかかわる事項との両面にわたります。『初級編』の映像では、それらの事項のうち映像で提示することが有効であり必要性が高いと考えられる事項が優先的に描かれており、それ以外の項目は必ずしも映像化されていませんが、学習項目一覧表では、映像化されなかった項目をも含め、初級段階で扱われるべき学習項目を網羅します。項目一覧表を初級用総合シラバスとして利用することにより、映像を主教材とする学習プログラムを組み立てることができます。

その他 学習者のための学習書やワークシート、教室活動のための絵カード、OHPシート等、授業での使用例集などの作成が検討されています。

『初級編』では、ユニット1を一般に初級段階で提示される文法項目のおよそ半数弱を習得したレベルに合わせ、以下、ユニットごとに順次レベルを上げて、ユニット4では初級文法項目のすべてを学習したレベルを想定して作成されています。また、言語運用上の項目は、各ユニットごとに重点的な項目を設定し、それらを中心に提出されています。各ユニット中のセグメント間にはレベルの差はなく、そのユニットで学習される主な項目は、ユニットに含まれる10のセグメントの随所に配置されています。たとえば、相手が表明する感情に共感を示したり自分自身の感想を付け加えたりする場面は、ユニット4の各セグメントで、それぞれ異なる状況での例が描かれています。これらの場面を検索し組み合わせて提示することによって、ことばの使い分けのために意識しなければならない要因を理解し、さまざまなモデルに沿って練習を行うのが、『初級編』の最も基本的な使用方法です。

課題・方略・単位方略 以下のシナリオ中には、談話の骨格を作る主なせりふに対して、それが談話中で担う役割が書き込まれています。これらは、ある場面でのタスクを遂行するために踏まなければならない個々の手順である「単位方略」の種別を表します。

一般に、ある場面で達成しようとする課題（タスク）は、その時、その場で、その人との間で遂行される一回限りの具体的なことがらです。そのような課題を達成するためのやり方を方略（ストラテジー）と呼ぶことにすると、方略も、その談話限りの個別的な手段であって、同じ方略は二度と現れないことになります。しかし、もちろん、日常生活で遂行される課題の多くは、繰り返し経験されることがらであり、そのための方略は、毎回、ある程度似通った構造を持ちます。たとえば、「デートに誘う」課題のための方略は、前回遅れたことをわびる「陳謝」や行き先の場所にまつわるおもしろい話を教える「情報の叙述」などが挿入されうるとしても、基本的には、相手の都合を尋ねる「情報提供の要求」、いっしょに行こうと誘う「勧誘」、なぜそこがいいかを述べる「事情の説明」、時間と場所を提案する「提案の提示」などによって構成されます。

このように、方略はいくつかの構成要素に分解して考えることができ、それらの要素は、社会習慣として、だれもが繰り返し用いるある程度一定した伝達様式です。これら、方略の構成要素となる伝達手段を単位方略（タクティクス）と呼ぶことにします。

単位方略を実現する手段は、場面の条件によって、いくつかの言語的または非言語的な選択肢の中から選択されます。たとえば、別の人の発言が終わるまで発言を控えるよう求める「行為の制止」は、「ちょっと待って」などのことばでも、手のひらを相手に向けて手を突き出す、などの非言語的手段でも実現することができます。日本語学習では、ある単位方略を実現する手段として、どんな場面でどんなものが適当であるのかを順次身につけていくことが最も主要な学習内容になるべきです。

『初級編』の使用方法 この『初級編』は、こうした考え方に基づき、ある種類の方略はどんな単位方略から構成されるか、それぞれの単位方略はどんな言語的／非言語的手段によって実現されるか、それらの手段の使い分けの基準は何か等を学習することを最も主な目的として作成されています。ある種類の課題を遂行する場面が、ユニットをこえるいくつかのセグメントに分散して配置されていますから、学習の中で取り上げようとする項目を、教材全体の中から検索し、比較しながら提示したり、場合によっては、他の教材や生の映像等とも組み合わせて使用するのが効果的です。

また、検索する項目として、語彙・文法的事項、運用能力に関する事項、文化的な事項など、さまざまなものを見れば、『初級編』各場面を繰り返し多角的に利用することができます。もちろん、復習などのために、セグメントを追って順次提示する使い方も可能です。

学習項目の設定や、その提示のしかた、教室活動の設計などについては、教授者の独創によって、さまざまな工夫が可能です。この映像教材を効果的に利用するためには、まず、映像を十分に分析し、内容を把握することが必要です。その助けとなる解説書が追って刊行されますが、それを利用して、有効な使用法を開発されるよう期待します。

日本語教育映像教材初級編「日本語でだいじょうぶ」

作成関係者

(所属職名等は平成8年3月1日現在)

【日本語教育映画等企画協議会委員】

(所外委員) カッケンブッシュ寛子(国際基督教大学教授)

高木 裕子(山形大学助教授)

土井 真美(国立国語研究所客員研究員)

山下 早代子(国際基督教大学講師)

山元 啓史(筑波大学助手)

(国立国語研究所所内委員) 相沢 正夫(日本語教育センター第1研究室長)

石井 恵理子(日本語教育研修室研究員)

熊谷 康雄(情報資料研究部第2研究室主任研究官)

杉戸 清樹(言語行動研究部第1研究室長)

【国立国語研究所内関係者】

水谷 修(所長)

甲斐 瞳朗(日本語教育センター長)

西原 鈴子(日本語教育指導普及部長)

中道 真木男(日本語教育教材開発室長)

熊谷 智子(日本語教育教材開発室主任研究官)

【企画・シナリオ執筆協力者】

有賀 千佳子

稻葉 みどり

小川 早百合

北野 美穂

黒野 敦子

田中 真理

玉置 亜衣子

寺田 裕子

土井 真美

四方田 千恵

{別表1}

日本語教育映像教材初級編「日本語でだいじょうぶ」
ユニット別セグメント一覧

ユニット 1 <p>よろしくお願ひします 主に、接觸の開始、特に、初めての相手との接觸の開始のしかた、互いに関する基本的な情報の求め方・考え方、親しくなるための談話などを描く</p>	セグメント 1 遅刻 — 尋ねる — 2 新しい友達 — お礼を言う — 3 忙しい一日 — 指示する — 4 日本ははじめてです — 紹介する — 5 この次は来月 — 約束する — 6 ぼくがおごります — 親しくなる — 7 私の町 8 待ち合わせ — おしゃべり — 9 プチトマト！ — 買物 — 10 お魚はちょっと — いっしょに作る —	所属ストーリー [I (a)] [II (a)] [III (a)] [I (b)] [III (b)] [II (b)] [映像素材(a)] [I (c)] [II (c)] [II (d)]
ユニット 2 <p>よくわかりました あるタスクを遂行するために必要な情報の求め方・教え方や、事情を話して相談し、解決方法を決めるやりかたといった「情報」のやりとりに重点を置く</p>	セグメント 11 川で — 出会う — 12 船に乗ってみますか — 案内する — 13 お茶にします — アドバイス — 14 お礼状？ — 教わる — 15 実は…… — 報告する — 16 よくわかりません — あきらめる — 17 それでOK！ — 説明する — 18 就職 — 様子を聞く — 19 校外学習 — 話し合う — 20 花火	所属ストーリー [IV (a)] [III (c)] [II (e)] [I (d)] [III (d)] [II (f)] [III (e)] [IV (b)] [I (e)] [映像素材(b)]
ユニット 3 <p>とてもいいですね 場面の性質や対人関係に応じて、適切なことばや非言語行動などを使い分ける‘待遇行動’としての伝達行動を中心扱う</p>	セグメント 21 海の底 — ことばで表す — 22 少々お待ちください — 応接 — 23 これはどうですか — 相談する — 24 静かに！ — うわさ話 — 25 卒業コンサート 26 ふりそで — 教わる — 27 ソトかウチか — 敬語 — 28 お祝いです — 贈り物 — 29 私の原稿は — 行き違い — 30 さよならですか — 伝える —	所属ストーリー [II (g)] [III (f)] [I (f)] [I (g)] [IV(c)・映像素材(c)] [I (h)] [III (g)] [IV (d)] [II (h)] [IV (e)]
ユニット 4 <p>また会いましょう 意志・感情・希望など、主観的な内容を適切なやり方で表現することを含めて、総合的なコミュニケーションの適切な方法を学習する</p>	セグメント 31 うまく書けました — 筆で書く — 32 お通夜 — 気持ちを表す — 33 いやだよねえ — あいづち — 34 すれ違い — 事情を話す — 35 子供部屋 36 インタビュー — 聞き手と話し手 — 37 まだ痛いですか — お見舞い — 38 夢なんですか — 希望を述べる — 39 決めました — 決意を述べる — 40 これからも…… — 退院 —	所属ストーリー [I (i)] [II (i)] [III (h)] [IV (f)] [映像素材(d)] [I (j)] [IV (g)] [II (j)] [II (k)] [IV (h)]

ストーリー別セグメント一覧

ストーリー I 勉強	日本語学校の学生・張と仲間たちの学生生活を軸に、いろいろなエピソードが展開する。ことばや文化に関するやりとりが多く現れる。
(ユニット 1)	セグメント 1, 4, 8
(ユニット 2)	セグメント 14, 19
(ユニット 3)	セグメント 23, 24, 26
(ユニット 4)	セグメント 31, 36
ストーリー II 友達	留学生の王とその友人・山田、朴の付き合いを軸として展開するストーリー。親しい間柄での言語使用が中心となる。
(ユニット 1)	セグメント 2, 6, 9, 10
(ユニット 2)	セグメント 13, 16
(ユニット 3)	セグメント 21, 29
(ユニット 4)	セグメント 32, 38, 39
ストーリー III 仕事	大学留学生のエレンたちが、アルバイト先の会社で経験するさまざまな場面を描く。改まった対人行動が要求される場面が中心となる。
(ユニット 1)	セグメント 3, 5
(ユニット 2)	セグメント 12, 15, 17
(ユニット 3)	セグメント 22, 27
(ユニット 4)	セグメント 33
ストーリー IV 恋人	卒業・就職を控えた大学4年生の深沢と3年生の亜紀子との出会いから再会までを描く。主観的な内容の表現を中心に取り上げる。
(ユニット 2)	セグメント 11, 18
(ユニット 3)	セグメント 25, 28, 30
(ユニット 4)	セグメント 34, 37, 40
映像素材	
(ユニット 1)	セグメント 7 私の町
(ユニット 2)	セグメント 20 花火
(ユニット 3)	セグメント 25 卒業コンサート
(ユニット 4)	セグメント 35 子供部屋

ストーリー展開と人物

この教材で設定されている4つのストーリーと映像素材の内容は、以下のようなものです。

ストーリー I 勉強

- {主な登場人物} 張 玉萍 中国人、日本語学校学生
 パチャリー・ラタナーワン タイ人、張の同級生
 ミーチャ ロシア人、張の同級生
 後藤紀子 日本語学校教師
 武田芳子 会社勤め、張の保証人の娘

(ユニット 1) 張は、大学受験の準備のために日本語学校に通う就学生。担任は、後藤先生で、同級生にパチャリーらがいる。来日の際に保証人を引き受けてくれた武田氏の娘・芳子とは、たびたび会ってショッピングなどを楽しむ仲。

- (a) セグメント 1 遅刻 — 尋ねる — 11月中旬の月曜日。学校に遅れそうな張は、急いで駅に向かうが、見知らぬ女性に道をきかれ、貴重な時間を取られてしまう。駅の通路に来ると、発車のベルが聞こえる。あわてて階段を駆け上ると、ベルは隣のホーム。こちらのホームには電車が停車中。乗り込み、アナウンスを聞くと、この電車は方向違いで、しかも特急。乗り合わせた乗客に教わって乗り換えるが、遅刻。教室では、同級生たちが「冬休みの旅行」の作文を書きはじめていた。
- (b) セグメント 4 日本ははじめてです — 紹介する — 11月下旬になって、張のクラスに新しい学生クレイグが加わった。質問攻めにする同級生たち。その日、パチャリーは気分が悪く、授業を抜けて医務室へ。
- (c) セグメント 8 待ち合わせ — おしゃべり — 12月中旬の日曜日。いっしょにショッピングにでかける約束をした張と芳子は、喫茶店で待ち合わせ。歩きながら正月の予定など、おしゃべりに興じる。

(ユニット 2) 張の日本語学校生活は、2年目に入っている。

- (d) セグメント 14 お礼状? — 教わる — 9月のはじめ。張は、保証人の武田家を訪ね、夏休みに旅行で行った信楽のみやげを渡す。世話になった知人に礼状を出すように言われ、書き方についてアドバイスを受ける。
- (e) セグメント 19 校外学習 — 話し合う — 10月中旬の水曜日。校外学習の計画について、クラスで話し合う。今年から同級生になったミーチャが、日光へ行くことを主張。張たちは、その提案に反論。パチャリーは水族館見学を提案する。

(ユニット 3) 大学の入学試験を間近に控えた張たちは、受験勉強に忙しい。

- (f) セグメント 23 これはどうですか — 相談する — 2月のある日。日本とアジアとの貿易について調べている張は、図書館の相談係に相談し、何冊かの参考書を紹介してもらう。
- (g) セグメント 24 静かに! — うわさ話 — 2月中旬のある日。張とパチャリーが図書館で勉強していると、ミーチャが入ってきて、後藤先生が突然外国へ行ってしまうとのこと。卒業まで後藤先生に教えてもらえると思っていた3人にはショック。大声を出すミーチャを図書館から連れ出し、パチャリーの発案で、送別会の相談をする。
- (h) セグメント 26 ふりそで — 教わる — 3月上旬のある日。大学への入学が決まり、日本語学校の卒業を間近に控えた張とパチャリーは、卒業パーティーで着る振り袖を選ぶため、芳子といっしょに貸衣装店を訪ねる。

(ユニット 4) 張、パチャリー、ミーチャは、それぞれ別の大学に進学している。

- (i) セグメント 31 うまく書けました — 筆で書く — 9月初めの休日。書道を習う張、パチャリー、ミーチャ。
- (j) セグメント 36 インタビュー — 聞き手と話し手 — 9月中旬の日曜日。張、パチャリー、ミーチャ、芳子の4人は、ハイキングに出かけ、川原でバーベキューをしている。3人に大学生活について尋ねる芳子。

ストーリー II 友達

{主な登場人物} 王 崇 梁 中国人、教育行政専攻の南海大学研究生
山 田 康 浩 南海大学国語学科助手
朴 海 煥 韓国人、南海大学大学院生、王の先輩
小 川 明 美 看護婦、山田のガールフレンド

(ユニット 1) 王は、来春大学院を受験するため、11月に来日、南海大学の研究生になったばかり。偶然、同じ南海大学国語学科助手の山田と知り合い、山田のガールフレンド・小川や大学院の先輩・朴らを交えて付き合うようになる。

- (a) セグメント 2 新しい友達 — お礼を言う — 11月中旬の月曜日の朝。いつもとは違うルートで大学へ行こうとした王は、バスに乗るが、小銭の持ち合わせがなく、困ってしまう。その時バス代を出してくれた山田は、同じ南海大学の助手だった。互いのことを話すうち、親しくなっていく。
- (b) セグメント 6 ぼくがおごります — 親しくなる — ボーナスをもらった山田は、王をてんぷら屋に招待。ガールフレンドの小川を紹介する。王は、近いうちに中華料理を作つてごちそうすると約束。
- (c) セグメント 9 プチトマト！ — 買物 — 12月中旬の金曜日。先日約束した中華料理パーティーのため、王、朴、山田、小川の4人は材料を買いに出かける。王と小川は八百屋で買い物。そこへ、手みやげを買い行つた朴と山田が合流。そろってスーパーへ。買い込んだ材料を持って、一同は、王のホームステイ先、荒木家へ。お母さんの出迎えを受ける。
- (d) セグメント 10 お魚はちょっと — いっしょに作る — セグメント 9 の続き。料理をする一同。荒木家の娘、純子も学校から帰つてきて加わる。やがて、豪華な中華料理が完成。

(ユニット 2) 王は、無事に大学院に入学。山田の研究室にもしばしば訪ねてきている。

- (e) セグメント 13 お茶にします — アドバイス — 9月上旬の水曜日。王は、山田の研究室を訪れ、話している。国語学科の3年生が入つてきて、後期の授業のとり方について、山田のアドバイスを求める。
- (f) セグメント 16 よくわかりません — あきらめる — 9月中旬の日曜日。修士論文の執筆にかかっている朴は、ハングルの使えるワープロを探しに電器店へ。店員の勧める機種は朴の希望に合わない。結局ワープロでは無理なようだが、パソコンについての店員の説明は要領を得ず、朴は見切りをつけて立ち去る。

(ユニット 3) 王の大学院生活1年目は、終わりに近づいている。

- (g) セグメント 21 海の底 — ことばで表す — 王、朴、山田、小川の4人は、水族館を訪れ、あれこれと見て回る。
- (h) セグメント 29 私の原稿は — 行き違い — 3月中旬の金曜日夕刻。王は、教育学部の論文集に出す論文を見てくれるよう山田に頼む。自分も原稿を書かなければならない山田は、読み始めるのが翌週の火曜になると遠回しに断るが、火曜までに見つもらえるのだと思った王は、原稿を預けて行つてしまう。王の原稿の締切日は翌週水曜。火曜の夕方になってようやく行き違いがわかり、二人は気まずい思いのまま別れる。

(ユニット 4) 王は大学院修士課程の2年目。朴は、修士課程を終え、博士課程の1年目に入っている。

- (i) セグメント 32 お通夜 — 気持ちを表す — 9月初めのある日。早朝、まだ眠っている王に、朴から電話がかかり、二人が指導を受けている内田助教授が突然亡くなったとのしらせ。通夜の焼香に訪れた山田は、手伝いを申し出、セグメント 29 で気まずい別れ方をして以来、久しぶりに王とことばを交わす。問題の王の原稿は、印刷の途中で内田先生が直してくださったとのこと。指導教官を失った朴は途方に暮れる。
- (j) セグメント 38 夢なんです — 希望を述べる — 9月下旬の木曜日。内田先生の葬儀から半月ほどたっている。大学へ来た山田は王に出会い、後ほど研究室へ来るよう誘う。
- (k) セグメント 39 決めました — 決意を述べる — セグメント 38 の後、夕刻。研究室で待っている山田に王から電話。大学近くのスナック‘エスポワール’へ行くと、朴と王がいる。朴は、新しい指導教官を求めてアメリカへ行くことにしたという。

ストーリー III 仕事

《主な登場人物》 エレン・ソウザ ブラジル人、大学留学生、アルバイトとして旅行社ヤングトラベルで働いている
サイモン・マッコイ オーストラリア人、大学留学生、ヤングトラベルのアルバイト
クラウディア・ロッシ イタリア人、大学留学生、ヤングトラベルのアルバイト
谷山治男 ヤングトラベル企画課長
池田洋子 谷山の部下
江口徹 谷山の部下

(ユニット 1) サイモンとエレンは、大学留学生。旅行会社ヤングトラベルの企画課で長期アルバイトとして働いている。企画課の課長は谷山。その部下に池田、江口らがいる。

- (a) セグメント 3 忙しい一日 — 指示する — 11月中旬の水曜日。始業時間にはまだ間がある。のんびりと出勤してきたサイモンだが、オフィスでは、課長以下一同が猛烈に仕事中。急な仕事が入ったとのこと。さっそく大量の作業を命じられてしまう。遅れてきた江口に仕事の報告を求めたり、作業の指示を出したりする谷山。午後4時すぎになって、ようやく作業は終わつたが、ちょっとお茶を飲んで、まだまだ仕事は続くらしい。
(b) セグメント 5 この次は来月 — 約束する — 11月下旬の水曜日。谷山と池田は、ある県の観光旅館組合役員・伊原と用談。次回の約束をして送り出す。一人オフィスに残った江口は、ガールフレンドの桜井にこっそりと私用電話。エレンは、取引先との打ち合わせ日程を谷山に相談。電話をかけるが、相手は不在。留守番電話にメッセージを入れる。

(ユニット 2) エレンは、ヤングトラベルでアルバイトを続けている。最近、クラウディアが仲間に加わった。

- (c) セグメント 12 船に乗ってみますか — 案内する — 9月上旬のある日。池田は、日帰り旅行プランの下見のため、クラウディアを連れて‘東京ベイトピア’へ来ている。
(d) セグメント 15 実は…… — 報告する — 9月中旬の金曜日。ファックスが届き、予約してあった徳島のホテルから、予約金が期日までに支払われなかつたので、キャンセルとみなすとの連絡。担当の江口は、あわてて連絡をとるが、部屋はもう空いていない。おそるおそる課長の谷山に報告。ホテルは、池田が見つけてくれた高松に変更となる。
(e) セグメント 17 それでOK！ — 説明する — 9月中旬のある日の昼休み。エレンが一人オフィスに残って弁当を食べようとしていると、バス会社、浅野交通へ打ち合せに行っている江口から電話。ファックスで浅野交通に資料を送るように言われる。ファックスを使ったことがないエレンは、原稿のセットのしかたをまちがえてしまう。

(ユニット 3) ヤングトラベルでアルバイトを続けるエレンとクラウディア。

- (f) セグメント 22 少々お待ちください — 応接 — 2月中旬のある日。今日は、池田が外出していて不在。社内総務課の社員は、明日出なおすと言つて帰っていく。取引先サクラツアーズの山内には、江口がかわって応対。課長の谷山が不在の間に、行きつけの飲み屋のおかみから電話がかかる。
(g) セグメント 27 ソトかウチか — 敬語 — 3月中旬のある日。昼休みが終わろうとするころ、企画課が所属する販売促進部の部長が突然やってきて、エレンに谷山課長の所在を尋ねる。自分と谷山と部長との関係がわからず、だれにどう敬語を使うべきか迷うエレン。クラウディアといっしょに、居合わせた池田に問い合わせます。

(ユニット 4) ヤングトラベルでアルバイトを続けるエレンとクラウディア。

- (h) セグメント 33 いやだよねえ — あいづち — ヤングトラベルでアルバイトをしているエレンとクラウディアが、仕事のことなどを話し合う。

ストーリー IV 恋人

{主な登場人物} 村井亜紀子 西北大学3年生

深沢 良昭 板橋経済大学4年生、大学の民謡研究会に属し、歌手をめざすかたわら、就職活動中

宮田 愛 板橋経済大学1年生、民謡研究会で深沢の後輩

(ユニット 2) 亜紀子は、西北大学3年生。板橋経済大学4年生の深沢と知り合い、付き合いはじめる。深沢は、大学の民謡研究会に入っていて、ひそかにプロの歌手をめざしているが、その一方で、卒業を前に就職活動中。北海道に本社のある広告会社・道南情報から内定をもらっている。

(a) セグメント11 川で — 出会う — 9月下旬の土曜日の朝。自転車で近くのコンビニエンスストアまで買い物に出た亜紀子は、通りかかった川原で「津軽山唄」の練習をする深沢を見かける。深沢は、この川原のボート乗り場でアルバイト中。夕方になって、川原へスケッチに出かけた亜紀子は、深沢と初めてことばを交わす。

(b) セグメント18 就職 — 様子をきく — 10月中旬の金曜日の夕方。川での出会いの後、深沢と亜紀子は何度かデートを重ね、恋人として付き合っている。内定先の道南情報の東京支店に顔を出してきた深沢は、デートの約束をした亜紀子を待っている。やや遅れて亜紀子が現れ、レストランで食事。亜紀子は、民謡歌手をあきらめようとする深沢に少々不満。それに、北海道の会社に就職したら、二人の付き合いはどうなるのか。

(ユニット 3) 深沢は、大学を卒業して社会人に。就職先の本社は札幌だが、東京支店にいられるのか。深沢と亜紀子は不安な日々を過ごす。

(c) セグメント25 卒業コンサート [兼・映像素材(c)] 3月初めの金曜日夕刻。板橋経済大学民謡研究会は、卒業生の最後のステージとして演奏会を開く。深沢の演奏を聞くため駆けつける亜紀子。深沢の歌う「南部牛追唄」に聞き入る亜紀子の目に、雪解けから早春に向かう山野の風景が浮かぶ。映像素材として作られたセグメント。

(d) セグメント28 お祝いです — 贈り物 — 3月中旬のある日。深沢に卒業祝いを渡そうと、亜紀子は、民謡研究会の部室前で待っている。なんと言って渡そうか考える亜紀子の前に、突然、深沢の後輩の1年生、宮田が現れ、無遠慮に二人のことを尋ねる。やがて現れた深沢にプレゼントを渡す亜紀子。

(e) セグメント30 さよならですか — 伝える — 新学年に入った4月上旬のある日。深沢は道南情報に就職し、東京支店で研修中。亜紀子は、4年生に進級。深沢の退社時に待ち合わせた公園で、深沢は任地が札幌に決まったことを告げる。不安を隠せない亜紀子。数日後、任地に出発する深沢を、亜紀子は空港の片隅から見送る。

(ユニット 4) 深沢の北海道赴任以来、めったに会うこともできない深沢と亜紀子。

(f) セグメント34 すれ違い — 事情を話す — 9月中旬のある日。深沢の東京出張を利用してデートの約束をした二人。待ち合わせ場所は、ショッピングモールの1階だが、地下1階から吹き抜けの広場があり、一見、地下1階が1階に見える。深沢は地下1階で待ち、その上の1階で待つ亜紀子に気付かない。あきらめて帰ろうとする亜紀子を見かけた深沢は、後を追う。大声で呼ぶが、イヤホーンで激しい音楽を聞いている亜紀子の耳には届かない。亜紀子を追って道に飛び出した深沢は、車にはねられる。

(g) セグメント37 まだ痛いですか — お見舞い — セグメント34の事故の翌々日。けがをした深沢は、入院中。大学の民謡研究会の友達から聞きつけた宮田が見舞いに来る。続いて、昨夜、深沢からの電話でようやく事情を知った亜紀子もやってくる。

(h) セグメント40 これからも…… — 退院 — 9月下旬。事故から2週間ほどたって、深沢の退院の日。車で迎えに来た亜紀子は、東京と北海道に離れても信じていると、気持ちを告げる。

ユニット 1 「よろしくお願ひします」

ユニット1「よろしくお願ひします」は、コミュニケーションの開始を最も大きな学習内容としています。談話を開始するときには、何のためにコミュニケーションを始めるのか、何を求めようとするのかを、できるだけ早く明らかにする必要があります。それによって、相手は、談話の展開を予測しやすくなり、安心してコミュニケーションに応じることができます。また、頼むときにはおずおずと制止するときにはきっぱりとといったように、コミュニケーション開始時の態度にも、適切なものが要求されます。コミュニケーションの成功のために、接触の開始は非常に重要なポイントであると言えます。

接触を始めるためには、相手の注意を引く、用件を切り出す、事情や経緯を説明する、といった手順が必要です。また、初対面の相手である場合は、話を始める意志表示をし、自分が何者であるかを明らかにする、といった手順が必要になります。談話が始まった後に行われる情報のやりとりも、用談の場合と、ことばを交わすことによって親しくなることを目的とするような場合とで、その内容は異なります。

このユニットでは、そのようなさまざまな手順として、どのような言語的・非言語的伝達手段が用いられるかが、さまざまな場面、さまざまな人間関係の中で描かれています。

セグメント 1 遅刻 —尋ねる— (ストーリー I 「勉強」(a))

登場人物 張玉萍 おばさん 車掌(アナウンス) 乗客 後藤紀子 学生たち

場面(1) 11月中旬の月曜日、朝。駅への道。学校へ向かう張、急ぎ足に歩いてくる。おばさん、メモを手に、迷っている。

おばさん (張を見つけ、声をかける) 【接觸の開始】すみません。【情報提供の要求】あかまつしょうはどこですか。

張 (驚く) あかまつしょう、ですか。

おばさん ええ、ええ。

張 (あたりを見回す) さあ。

おばさん この辺なんですけどねえ。(あたりを見回す)

張 (信号の「赤松小学校前」の表示を思い出し、気がつく) 【情報確認の要求】あ、小学校ですか。

おばさん 【情報の確認】ええ、ええ、赤松小。

張 【情報の提供】ああ、それじゃあ、(手で指しながら) あの角を右に曲がって、……

おばさん 【情報確認の要求】あのごみのところですか。

張 【情報の確認】はい、そうです。【情報の提供】少し行って、左側にあります。

おばさん はい。【感謝の表明・接觸の終了】ありがとうございました。(丁寧に頭を下げる)

張、軽く会釈して小走りに立ち去る。

場面(2) 後刻。駅の地下通路。発車のベルが鳴っている。張、階段をかけ上がってくると、ベルは隣のホームのもの。こちらのホームにも電車が到着している。張、ほっとして乗り込む。ドアが閉まる。

場面(3) 走りだした電車の車内。張、座っている。

アナウンス 毎度ご利用くださいまして、ありがとうございます。この電車は、特急橋本ゆきです。次は、京王多摩センターに止まります。京王多摩センターの次は、終点橋本です。

張、アナウンスを聞いて驚き、立ち上がってドアの上の路線図を見上げる。辺りを見回し、近くの席に座って新聞を読んでいる乗客に尋ねる。

張 【接觸の開始】あのう……、

乗客 (ヘッドホンステレオのイヤホーンを外す) はい?

張 【情報提供の要求】次は、(路線図を指差しながら) どこに止まりますか。

乗客 (路線図を見て) ああ、次ですか。(窓の外など見回して) 【情報の提供】ええ、多摩センターでしょう。

張 【情報確認の要求】たません……。

乗客 (はっきりと) 【情報の確認】京王多摩センターです。

張 【情報提供の要求】府中は、止まりませんか。

乗客 【情報の提供】あ、府中は方向が違いますよ。(指さし、路線図を見上げて) ええと、調布で乗り換えですね。

張 調布ですね。【感謝の表明・接觸の終了】どうもありがとうございました。

走る電車。

場面(4) 10時すぎ。日本語学校の教室。1時間目の授業が始まっている。学生たち、座って「冬休みの旅行」の作文を書いている。後藤、教卓のところにいる。遅刻した張、息を切らし、そっと入ってくる。

張 【接觸の開始・陳謝の表明】すみません……。

後藤 【説明の要求】張さん、どうしたんですか。

張 【事情の説明】あのう、電車を間違えて……。

後藤 ああ、そうですか。それは大変でしたね。

張、席に着く。後藤、近づいて原稿用紙を渡す。

セグメント 2 新しい友達 —お礼を言う— (ストーリーⅡ「友達」(a))

登場人物 王崇梁 山田康浩 バスの運転手

場面(1) 11月中旬、月曜の午前10時半ごろ。郊外の私鉄駅周辺の線路沿いにあるバス停留所。王、駅のほうから来て、バス停を見つけ、近づく。バス停ポストの時刻表、路線図等を見る。バス待っている客の列の先頭の山田に話しかける。

王 【接觸の開始】あのう、……。

山田 (目を上げる) はい。

王 【情報提供の要求】すいません、このバスは南海大学へ行きますか。

山田 【情報の提供】あ、た、よんにいという行きます。

王 【説明の要求】た、ですか。

山田 【事情の説明】あ、あの、(空中に書いてみせる) 多いという字です。

王 あ、(バス停ポストの表示を見る) 多42ですか。【感謝の表明・接觸の終了】どうもありがとうございます。(頭を下げ、列の最後尾に並ぶ)

場面(2) 多42のバスが来て、客達、順番に乗り込む。王、小銭入れに小銭がないことに気付き、後の客を通しながら入れを開ける。千円札もないで、1万円札を出す。

王 【接觸の開始・行為の依頼】あのう、すいません、おつり、ありますか。

運転手 【要求への拒絶】無いですね。細かいのありませんか。

王 はあ、これしか無いんですけど。

運転手 (マイクで車内に放送する) 【行為の依頼】どなたか、1万円、細かくしていただけませんか。

中程に座っていた山田、まわりの乗客たちを見回し、立ち上がって近づき、王に小銭を差し出す。

山田 【行為の申し出】あのう、これ、よかったらどうぞ。

王 えっ、でも……。(山田と小銭を見比べる)

山田 いえ、いいですから。どうぞ。

王 【申し出の受諾】そうですか。じゃあ。(受け取る) 【感謝の表明】ありがとうございます。(頭を下げる)

山田 いいえ。

王、小銭を料金箱に入れる。バス、発車する。王、車内を歩き、席に戻っている山田の前に立つ。

王 【感謝の表明】どうもありがとうございました。助かりました。

山田 いいえ、いいんですよ。(王に席を勧め、王、座る)

王 【情報提供の要求】あのう、いつもこのバスですか。

山田 【情報の提供】ええ、まあ。

王 あ、そうですか。【意志の表明】じゃ、今度、お金を……。

山田 いいですよ、もう。気にしないでください。

王 でも、そんな……。

走るバス。

山田 【情報提供の要求】あのう、南海大学の方ですか。

王 【情報の提供】ええ、今月から研究生になりました。

山田 そうですか。【情報の提供】私も、南海で助手をしてるんですよ。

王 えっ、そうですか。

山田 ええ。【情報の提供】国語学科の山田と言います。

王 国語ですか。【情報の提供】わたくし、教育行政の王と申します。(頭を下げる)

山田 じゃ、隣の建物だ。【行為の勧め】今度、遊びに来てくださいよ。

王 【要求への了解】はい、ぜひ。バス代を持って。

山田 あ、いや、それはもういいですよ。【情報提供の要求】失礼ですけど、お国は?

王 【情報の提供】中国です。

山田 そうですか。研究生ですか。【情報提供の要求】来年は、大学院を受けるんですか。

王 【情報の提供】はい、そのつもりです。

山田 【情報提供の要求】教育行政って、どんなことするんですか。

二人、そのまま話している。

セグメント 3 忙しい一日 — 指示する — (ストーリーⅢ「仕事」(a))

登場人物 サイモン・マッコイ エレン・ソウザ 谷山治男 池田洋子 江口徹

場面(1) 11月中旬の水曜、朝8時40分ごろ。ヤングトラベル企画課オフィス。サイモン、出勤してくる。オフィスに入ると、すでに一同、忙しげに働いている。サイモン、驚き、一呼吸おいてから頭を下げ、あいさつする。

サイモン 【接觸の開始】おはようございます。

一同 (顔を上げる) おはようございます。

谷山 (作業をしている一同に近づき、書類を渡す。サイモンに気がつく) 【接觸の開始】ああ、サイモン君。

サイモン (谷山に) おはようございます。

谷山 (サイモンに) おはよう。(池田に) 【行為の指示】ええと、池田さん、それはね、サイモン君に頼んで。で、池田さんはDMのリストを調べてよ。

池田 はい。【話題の開始】じゃ、サイモンさん。

サイモン はい。

池田 (パンフレットの束を見せながら) 【事情の説明】このパンフレット、急いで送ることになったんですよ。

サイモン はい。

池田 (パンフレットの裏表紙にスタンプを押すまねをして見せる) 【行為の指示】ます、ここにこのスタンプを押してください。

サイモン はい。【説明の要求】これ、どのくらいあるんですか。

池田 【事情の説明】ええと、700部だったかなあ。【接觸の終了】がんばってね。

サイモン (やや力なく) はい。

池田、立ち去る。サイモン、うんざりした顔。画面、ワイプ。

場面(2) 後刻、10時9分すぎ。同じく、ヤングトラベル企画課オフィス。江口、出勤してくる。

江口 (元気よく) 【接觸の開始】おはようございます。(室内の雰囲気を見て首をすくめ、自席に向かう。池田、すれ違いながら腕時計を指してみせる)

谷山 (目を上げずに呼び止める) 【接觸の開始】江口君。

江口 あ、はい。(谷山の方を振り向き、近づく)

谷山 【情報の要求】チラシの原稿、どうなった?

江口 【情報の提供】一応もう、できます。

谷山 【行為の指示】できたものは、すぐに見せる。

江口 すいません。(デスクから原稿を取り、谷山に渡す) こんな感じですけど。(谷山、めくって見る。)

江口、紙面の下の方を指すあと、ここに写真が入ります。

谷山 ふうん。【説明の要求】写真は?

江口 【事情の説明】今日、届きます。

谷山 【話題の収束】うん。ご苦労さん。(原稿を返す)

場面(3) 午後1時37分。同じ室内。

谷山 (サイモンに) 【情報提供の要求】さてと、(パンフレットの束を指す) それは、もうできた?

サイモン 【情報の提供】はい、きました。

池田、エレン、デスクに並んで座り、仕事をしている。

池田 【話題の開始】エレンさん、

エレン はい。

池田 【情報提供の要求】段ボールはどこですか。

エレン 【情報の提供】はい、あそこです。(部屋の隅を指す)

池田 【行為の指示】ああ、じゃあ、(後ろのデスクを指す) そこに持ってきてください。

エレン はい。(段ボールの空き箱を運ぶ)

谷山、池田の席に近づく。

谷山 (池田に) 【情報提供の要求】封筒は?

池田 【情報の提供】ええと、ここです。(自分の前を指す)

谷山 (池田の隣に座りながら封筒を1枚取って見る) 【情報提供の要求】ラベルはできてるの?

池田 【情報の提供】はい、チェックしました。(ラベルの束を見せる)

谷山 【行為の指示】よし。じゃあ、封筒に入れて、ラベルを貼って。(封筒をもとのところに戻し、立ち去る)

池田 【要求への了解】はい。

場面(4) 午後4時24分。同じ室内。新人社員たちが郵便物を入れた段ボール箱を運びだしている。江口、外から帰ってくる。

江口 (谷山に) 【接觸の開始】ただいま帰りました。

谷山 【接觸開始の受け入れ】あ、ご苦労さま。【行為の指示】ああ、チラシの写真、来てるから、原稿といっしょに送って。

江口 はい。【説明の要求】ええと、どこですか。

谷山 (江口のデスクを指す) 【事情の説明】そこの机の上の封筒。

江口 (デスクの封筒を取ろうとしながら) 【情報確認の要求】これですか。

谷山 【情報の訂正】違う違う。その向こう。

江口 これですね。(封筒を取り、中身を出してみる) 【情報の提供】え、これ、違いますよ。

谷山 え、おかしいな。(立って見回す)

江口 (別の封筒を見つける) あ、これかな。(中身を出してみる) 【情報の提供】ああ、ありました。

谷山 【話題の収束】あ、じゃ、よろしく。

江口、コートを脱ぎ、席に着く。池田、作業を終わる。

池田 【情報の提供】課長、終わりました。

谷山 (腕時計を見る) ああ、割に早かったな。(一同に) 【配慮の表現】みんな、ご苦労さま。【行為の指示】ちょっと、お茶にしようか。(戻ってきた新人たちに) ご苦労さま。

セグメント 4 日本ははじめてです — 紹介する — (ストーリー I 「勉強」(b))

登場人物 張玉萍 後藤紀子 クレイグ・ホーン パチャリー・ラタナーワン 学生A 学生B
学生1 学生2 学生3

場面(1) 11月下旬の水曜日。日本語学校の教室。1時限の開始時。後藤、クレイグを連れて、教室に入ってくる。

後藤 【接続の開始】おはようございます。

学生たち おはようございます。

後藤 【情報の提供】みなさん、紹介します。こちらは、クレイグ・ホーンさんです。今日からいっしょに勉強します。(クレイグに) 【行為の指示】それじゃ、自己紹介してください。

クレイグ(後藤に) はい。(一同に) 【情報の提供】はじめまして。クレイグ・ホーンです。アメリカのサンディエゴから来ました。どうぞよろしくお願いします。

学生A (手をあげる) 【許可の要求】あのう。

後藤 はい。

学生A 【情報提供の要求】クレイグさんは、いつ日本に来ましたか。

クレイグ 【情報の提供】ええと、先月の、(後藤に尋ねるように)はじめ?(後藤、うなずく)

学生A 【情報確認の要求】先月のはじめですか?

クレイグ 【情報の確認】はい、そうです。先月の3日にきました。

学生B 【情報提供の要求】今まで、どこで日本語を勉強していましたか。

クレイグ どこで?(学生B、うなずく) 【情報の提供】ええ、サンディエゴの日本語学校で勉強していました。

張 【情報提供の要求】日本は、はじめてですか?

クレイグ 【情報の提供】はい、はじめてです。

張 【情報提供の要求】なぜ日本へ来たのですか。

クレイグ 【情報の提供】あのう、日本の大学に入りたいです。入りたいからです。

後藤 【行為の指示】それじゃ、クレイグさん、わからないことは、みなさんにきいてくださいね。(クレイグ、うなずく) 【話題の収束】みなさんも、よろしく。

クレイグ (一同に) 【話題の収束】よろしくお願いします。

学生たち よろしくお願いします。

場面(2) 授業が始まっている。後藤、ビデオを見せようとしている。パチャリー、額を押さえ、目を閉じている。隣に座っている張、パチャリーの方を見る。

張 (小声で) 【配慮の表明】パチャリーさん、大丈夫?

パチャリー(うなずく) はい。

張 【行為の申し出】先生に言いましょうか。

パチャリー 【申し出の拒絶】いいえ、大丈夫です。

後藤、気が付いてパチャリーたちの方を見る。学生たち、振り返る。張、パチャリーの額に手を当てる。熱い。

張 【情報の提供】先生、パチャリーさんは病気だと思います。熱があります。

後藤(パチャリーに近寄る) 【説明の要求】パチャリーさん、額が赤いわね。どうしたんですか。

パチャリー 【事情の説明】少し体が熱いです。

後藤(パチャリーの額に手を当てる) ほんとう。熱があるわ。【行為の指示】医務室へ行ったほうがいいですね。

張 【行為の申し出】先生、私が。

後藤 【申し出の受諾】え、じゃ、張さん、いっしょに行ってください。

パチャリー、張に付き添われて教室を出ていく。

セグメント 5 この次は来月 — 約束する — (ストーリーIII「仕事」(b))

登場人物 谷山治男 池田洋子 江口徹 エレン・ソウザ 伊原聰
桜井美香（声のみ） 金（声のみ）

場面(1) 11月下旬の水曜日、午後2時半ごろ。ヤングトラベル社内の応接室。谷山、池田、訪ねてきた伊原と用談中。

谷山 ……あ、そうですか。楽しみですね。【情報提供の要求】この次は、いつ東京へ。

伊原（手帳を見る）【情報の提供】ええと、来月です。

谷山 【提案の提示】あ、では、その時に詳しいお話を。

伊原 はい。【提案の提示】ええと、5日はいかがですか。

谷山（手帳を見る）【要求への拒絶】あ、申し訳ありません。（池田とちょっと顔を見合わせる）【事情の説明】【提案の提示】1日からハワイへ出張で、5日に帰ってきますので、6日の木曜日はいかがですか。

伊原 【意向の表明】うーん、その日は、午後の新幹線で帰りたいんですが、午前中でいいですか。

谷山（手帳を見る）【提案の提示】はい、では、10時ごろ。

伊原 わかりました。（手帳に書き込む。谷山、池田、同じく書き込む）【結論の確認】6日の10時ですね。

谷山 【話題の収束】はい。では、またその時に。

伊原（手帳をしまい、立ち上がる）【接觸の終了】どうも、お忙しいところを。

谷山 【接觸終了の受け入れ】いえいえ。（立ち上がる）【感謝の表明】ありがとうございました。

池田（立ち上がり、頭を下げる）【接觸の終了】失礼いたしました。（先に立って出ていく）

伊原 それじゃ。（出て行く。谷山、続く）

{この場面の音声は、主音声に江口の声、副音声に電話の相手側の声が録音されています。両方のチャンネルを同時に再生して談話の流れを観察したり、一方のチャンネルだけを再生して他方の発言内容を推測したり、一方の役割を演じるなどの形で利用してください}

場面(2) 後刻、ヤングトラベル企画課のオフィス。江口、あたりを見回して電話を取り、ダイヤルする。副音声、呼び出し音。

女性の声（副音声）【接觸の開始】はい、東光銀行為替部でございます。

江口 【情報の提供】あ、ええ、ヤングトラベルの江口と申しますが、

女性の声 お世話になっております。

江口 ああ、どうも。【行為の依頼】桜井さんをお願いします。

女性の声 【要求への了解】はい、少々お待ちください。

副音声、テープの音楽。江口、あたりを見回しながら待つ。

桜井（副音声）【接觸の開始】もしもし、桜井ですが。

江口 美香さん？ ばく。

桜井 あら、どうしたの。

江口 【勧誘】うん、今夜さあ、どう？

桜井 こんやあ？ うーん。（渋る）

江口 この前言ってた店さあ、行ってみようよ。

桜井 ああ、あのインド料理？

江口（池田、入ってくる。江口、あわてて改まる）はい。【提案の提示】6時に新宿でいかがでしょうか。

桜井 【説明の要求】やだあ、だれか来たの？

江口 はあ。

桜井 【要求への了解】6時ね。うん、いいよ。【要求内容提示の要求】どこで？

江口 【提案の提示】ええ、南口の、ええ、改札口ではいかがでしょうか。（池田、デスクからファイルを取り、江口の顔をのぞき込んで、出ていく）

桜井 【要求への了解】南口の、改札口ね。……もしもし？

江口（池田を見送る）やれやれ。もう大丈夫。

桜井 【接觸の終了】じゃ、あとでね。

江口 うん。じゃあね。

江口、受話器を置き、にやっとして財布を出し、中身を調べる。

場面(3) さらに後刻。同じく、ヤングトラベル企画課オフィス。エレン、課長の席に近づく。

エレン 【話題の開始】あのう、ATAのキムさんとの打ち合せですが。

谷山 【話題開始の受け入れ】ああ、早くした方がいいね。

エレン 【情報の要求】課長、今週は。

谷山 (手帳を見る) 【情報の提供】ええっと、ちょっと無理だなあ。来週は、水曜日以外は大丈夫。

エレン わかりました。【意志の表明】向こうの都合を聞いてみます。

エレン、席に戻り、電話をかける。留守番電話につながる。

金 (録音の声) はい、ATAでございます。ただいま留守にしております。ピーという音の後にメッセージをお入れください。

エレン、メッセージを入れる。

エレン ヤングトラベルのエレンです。打ち合せの件でお電話しました。こちらは、できれば来週、……

セグメント 6 ぼくがおごります —親しくなる— (ストーリーⅡ「友達」(b))

登場人物 王崇梁 山田康浩 小川明美 てんぶら屋店員 てんぶら屋の客たち

場面(1) 12月中旬の金曜日、午後7時ごろ。てんぶら屋の店内。山田と王、テーブルに向かい合ってビールを飲んでいる。

店員 【接歓の開始】いらっしゃいませ。

小川、入ってきて店内を見回す。

山田（オフ）【接歓の開始】あ、こっち、こっち。

小川、テーブルに近づく。

小川（王に）【接歓の開始・配慮の表明】遅くなりました。（山田の隣に座りながら、山田に）待った？

山田（王に）【情報の提供】紹介します。こちらが小川明美さん。大野中央病院に勤めています。

王 【接歓の開始】はじめまして。（会釈する。小川、笑いながら頭を下げる）【情報提供の要求】お医者さんですか？

小川 【情報の提供】いえ、看護婦です。

店員（小川にグラス、突出し、おしゃりを持ってくる）いらっしゃいませ。

山田（小川に）【意向表明の要請】ビールでいい？

小川 【意向の表明】ええ。

山田（店員に）【行為の指示】じゃ、ビール、もう2本。

店員 かしこまりました。（去る）

小川 【説明の要求】もう、頼んだの？

山田 いや、まだ。（壁の品書きを見ながら）【提案の提示】定食がいいかな。（王、小川、同じく品書きを見る）

小川 【要求への了解】そうね。

王 【感想の叙述】でも、高いですね。

店員、ビールを運んでくる。

山田 大丈夫ですよ。（小川のグラスにビールを注ぎながら）【行為の申し出】今日はね、ぼくがおごります。

小川 あら、いいの？

山田 うん。【事情の説明】ボーナスが出たんですよ。（王に）今日は金持ちですから。

小川（王に）【申し出の受諾】じゃあ、ごちそうになりますよ。

王 でも、悪いですねえ。

山田 【提案の提示】じゃ、みんな松にしましょう。

王（山田に）【説明の要求】えっ、まつですか。

小川（品書きを指して王に）【事情の説明】定食は、松、竹、梅の3種類で、松がいちばん高いんですよ。

王 【意向の表明】じゃあ、わたしは梅にします。

山田 そんな、遠慮しないで。（奥の方にいる店員に）【行為の指示】松、3人前、お願ひします。

店員（オフ）かしこまりました。

場面(2) ざるの上の上のネタ。てんぶらの鍋。揚がって皿に載せられる穴子。再び、3人のテーブル。

山田（穴子の一本揚げを持ち上げる）【感想の叙述】これは長い。（長いまま天つゆをつけ、かじる）

王 【感想の叙述】おいしいですね。

小川 【情報叙述の要請】王さんは、やはり中国料理がいちばん好きですか。

王 【情報の叙述】そうですね。

小川 【情報叙述の要請】日本料理と西洋料理と、どちらが好きですか。

王 【情報の叙述】それはもちろん日本料理が好き、と言った方がいいですね。（3人、笑う）

場面(3) 後刻、てんぶら屋前の路上。小川、王、立っている。勘定を済ませた山田、のれんを分けて出てくる。

王 【感謝の表現】ごちそうさまでした。

山田 どういたしまして。

小川（山田に）【提案の提示】この次は中華料理、食べに行きましょうよ。

山田 【要求への了解】ああ、いいね。

王（二人に）【行為の申し出】そうだ、わたしが作りますから、食べてきてください。

小川 え、中華料理を？

山田 【申し出の受諾】それはいい。ぜひごちそうしてくださいよ。

王 今度、連絡します。

山田 うん、楽しみにしてます。

小川 【接歓の終了】じゃ、また。

王（山田に）はい、また大学で。

小川 【接歓の終了】とっても楽しかったわ。おやすみなさい。

小川、王、頭を下げる。山田、手を振って小川と去る。王、手を上げて見送る。小川、山田、振り向く。王、もう一度手を振り、去る。

セグメント 7 私の町 (映像素材(a))

{「映像素材」は、教授者・学習者が自分で作成した音声を付け加えたり、画像に写っている事物そのものを手がかりとして教室活動を組み立てたりすることを目的としています。副音声にナレーションが録音されていますが、これは参考にすぎません。主音声の状況音だけを再生する、無音で再生する、別に会話やナレーションを用意して副音声に入れるなど、使用目的に応じて自由に使用されることを想定しています}

登場人物 荒木智恵子 ナレーション (おすネコの声)

場面(1) 12月中旬の木曜日、午後4時ごろ。東京近郊の駅の改札口。勤め帰りの荒木、コートに書類かばんと傘を持ち、改札口を出てくる。あたりをちょっと見回しながら傘を開く。改札脇の電話ボックス、ポストのあたりをのぞき、歩きだす。	ナレーション（副音声）お母さんが帰ってきました。 まだ、雨が降っています。
場面(2) 商店街の脇道の角にある置き看板のかげからのぞくと、荒木、商店街を歩いてくる。向こう側の肉屋に入り、ショーケースのなかを指さして牛挽肉を注文する。	来た、来た。 肉屋で買物をします。 挽肉を買いました。
場面(3) 先回りして、道端の商品ケースのかげからのぞく。荒木、花屋の店をのぞいて、そのまま行きすぎる。	きれいな花がたくさんあります。 花は買いません。
場面(4) コンビニエンスストアをのぞいてみる。荒木、紙パックの牛乳とハムをレジに出す。	この店はいつも開いています。とても便利な店です。牛乳を買います。ぼくは、牛乳が大好きです。
場面(5) 商店街の路側を全速力で走る。そば屋、薬屋などの前を通る。知らないお姉さんが手を出して呼ぶが、無視して走り抜ける。	急ぎます。 そば屋があります。 薬はいつもこの薬屋で買います。
場面(6) 商店街外れの公園に入していく。ベンチの下に隠れていると、男女二人の子供がこちらに近寄ってくるので、後の植込みに逃げる。植込みのかげからのぞくと、荒木、公園に入ってきて、先程の子供たちといっしょに植込みをのぞいている。	疲れました。 子供は嫌いではありませんけど、今日は遊びません。
場面(7) 荒木、公園を出て行く。後をつけて、自転車の下をくぐり、道に出る。荒木、塀の上など見回しながら歩いて行く。	早く帰りましょう。雨はやみました。でも、今日は寒いです。
場面(8) 駐車場の塀の上から眺めている。荒木、駐車場に入ってきて、車の下をのぞき、出していく。塀の反対側に飛び降りる。	探しています。そこにはいません。
場面(9) 玄関前の階段の上から見ている。荒木、あたりを見回しながら門を開け、入って門を閉める。階段を降りながら、一声鳴く。荒木、振り向いて気が付き、かがみ込みながら近づいて抱きあげる。	ここが僕のうちです。 お帰りなさい。

荒木 まあ、お帰り。どこへ行ってたの、1週間も。心配してたのよ。（猫を抱き上げ、階段を上がっていく）

ナレーション 暖かい！

セグメント 8 待ち合わせ —おしゃべり— (ストーリー I 「勉強」(c))

登場人物 張玉萍 武田芳子

場面(1) 12月中旬の日曜、午後2時ごろ。喫茶店。芳子、コーヒーを飲み、手紙を書いている。張、入ってくる。芳子、張を見つけ、手を振る。張、芳子の席に近づく。

張 【接觸の開始】あっ、ごめんなさい。【配慮の表現】待ちましたか。（芳子の向かいに座る）

芳子 【感情への注目表示】いいえ、私も今来たところですから。【配慮の表現】すぐにわかりました？

張 ええ。（荷物を横の席に置く）

ウェイトレス（張の前に水を置く）【接觸の開始】いらっしゃいませ。

張 【行為の指示】ええと、ミルクティー。

ウェイトレス、去る。芳子、書きかけの手紙をバッグにしまう。

張 【説明の要求】手紙ですか。

芳子 【事情の説明】ええ、大学の友達がね、イギリスに留学してるんですよ。（バッグから写真を出し、張に渡す）

張 （写真を見る）【情報叙述の要求】へえ、いいですねえ。芳子さん、遊びに行きたいでしょう。（写真を返す）

芳子 【意志の表明】ええ、行くつもりです。でも、春になってからね。

張 あ、冬は寒いでしょうね。

ウェイトレス 【行為の合図】お待たせしました。（ミルクティーをテーブルに置く）

場面(2) 後刻、繁華街裏通りの交差点。張、芳子、歩いてくる。青信号が点滅はじめ、二人、止まって待つ。年配の男性、反対側に来て待つ。

芳子 【情報叙述の要求】張さん、お正月はどうします？

張 【情報の叙述】ああ、何も予定はありません。【情報叙述の要求】芳子さんは？

芳子 【情報の叙述】私は、大晦日からバリ島へ泳ぎに行くんです。

張 【感情の叙述】わあ、いいですねえ。【説明の要求】お友達と？（芳子、うなずく）ふうん。……（道の左右を見る）車、来ませんね。

芳子 ああ、（左右を見る）渡っちゃいましょうか。（一步踏み出す。向こう側の紳士、じろっと芳子を見る。芳子、止まる）

張 【感情の叙述】こういうとき、日本人は渡りませんね。

信号が変わる。二人、歩きだす。

芳子 【意図表明の要求】元旦には、うちへあいさつに来るでしょう？

張 【意志の表明】ええ、保証人にはごあいさつしなくちゃ。

芳子 【行為の依頼】私はインドネシアですから、父と母をよろしくね。

張 【要求への了解】じゃ、芳子さんのかわりに、明けましておめでとうございまーす。

すれ違った女子高校生の二人連れ、驚いて振り向き、笑う。張、芳子、ちょっと振り向き、口を押さえ肩をすくめて笑う。

セグメント 9 プチトマト！ — 買物 — (ストーリーⅡ「友達」(c))

登場人物 王崇梁 山田康浩 小川明美 朴海煥 荒木智恵子
八百屋の主人 スーパーのレジ係

場面(1) 12月中旬の金曜日、午後3時前。東京近郊の私鉄駅付近の商店街。雨が降っている。王、山田、小川、朴、傘をさして歩いている。王、買物メモを見て確認している。

王 (指で大きさを示して) 【情報提供の要求】あの、このくらいの小さいトマト、なんと言いますか。

小川 【情報の提供】ああ、プチトマトのことですか。

王 あ、プチトマト。(メモを書きなおす)

山田 【意図確認の要求】卵やピーフンはスーパーでいいですね。

王 ええ。【提案の提示】先に八百屋へ行きましょう。

場面(2) 直後。八百屋の店先。王、小川、メモを見ながら野菜を買っている。

八百屋 (ポリ袋に入れ、台に置きながら) はい、ネギにピーマンにチングンサイね。

小川 (リストを見ながら) 【行為の指示】それから、ニンジンと、ええと、あ、プチトマト、あります？

八百屋 【要請への拒绝】あ、今日はもう……。すいません。

小川 (リストを見て) 【話題の転換】じゃ、おいくらですか。

手土産を買いにいっていた山田、朴、やってくる。

山田 あ、いたいた。

八百屋 【行為の指示】えー、1250円です。

八百屋、ポリ袋を王に渡す。小川、財布を開ける。

場面(3) 後刻、スーパーの店内。一同、売場を回り、材料の食料品を次々にカートに入れる。

王 (音声のみ。画面、チェックされるリスト) たら、たまご、小麦粉、ピーフン、とり肉、レタス、プチトマト。

一同、レジ前でリストと品物を点検する。

王 (指さしながら) とり肉、たら、小麦粉、……。【評価の表明】大丈夫ですね。

朴 (リストをのぞき込む) 【情報確認の要求】何か忘れた物はない？

王 【情報の確認】うん、これで全部。

山田、カートを押してレジに進む。

レジ係 (バーコードを読み取らせ、合計金額を出す) 【行為の指示】4397円になります。

王 (5千円札を出す) あ、7円あります。(7円出す)

レジ係 【行為の合図】はい、(つり銭を出しながら) 610円のお返しになります。(つり銭とレシートを渡す) 【接觸の終了】ありがとうございました。

王、かごを持ってレジ外へ出る。

場面(4) 王のホームステイ先、荒木家の前。一同、歩いてくる。王、チャイムを鳴らす。荒木、階段を降りてきて門を開ける。

王 (一同に) 【情報の提供】えと、お母さんです。

荒木 (一同に) 【接觸の開始】荒木です。

山田 【接觸の開始・情報の提供】はじめまして、山田と申します。

荒木 【接觸開始の受け入れ】あ、王さんがいつもお世話になりました。

王 (手で指す) 【情報の提供】こちら、小川さんです。

小川 【接觸の開始・情報の提供】小川と申します。

荒木 【接觸開始の受け入れ】よろしくお願いします。

朴 【接觸の開始】こんにちは。お邪魔します。

荒木 【接觸開始の受け入れ】お久しぶり。(一同に) 【行為のうながし】さあさあ、どうぞ。

一同、門を入り、階段を昇る。荒木、リビングの入り口で一同を通す。最後に入ってきた山田、持ってきた包みをさし出す。

山田 【行為の申し出】あのう、つまらないものですが。

荒木 まあ、そんなこと、よろしいのに。……【申し出の受諾】じゃあ、いただきます。【感謝の表明】ありがとうございます。(受け取る) 【行為のうながし】さあさあ、どうぞ。

山田、リビングに入る。

セグメント 10 お魚はちょっと— いっしょに作る — (ストーリーⅡ「友達」(d))

登場人物 王崇梁 山田康浩 小川明美 朴海煥 荒木智恵子 荒木純子

場面(1) 12月中旬の金曜日、午後4時すぎ。荒木家の台所。朴、ビーフンを手に持っている。

王 【行為の指示】ビーフンはね、お湯に入れて。

朴 ええと、ポールは……。

荒木 (ダイニングの方から) 【行為の合図】はいはい。これでいいかしら。(耐熱ガラスのボールを持ってくる)

朴 【感謝の表現】あ、すいません。

山田 (荒木からボールを受け取り、朴の前に置く) 【行為の申し出】じゃあ、ぼく、野菜を切ります。

朴、ボールにビーフンを入れ、やかんの湯をかける。

王 え。(指を折って数え上げる) 【行為の指示】入れるものは、にんじんに、たけのこに、ねぎに、とり肉に、……。

山田 (材料を確かめて) 【情報確認の要求】あ、あと、しょうがとにんにくもでしょ?

王 【情報の確認】あ、そうです。

場面(2) 直後、ダイニングのテーブル。小川、たらのパックのラップを取り、こわごわと匂いをかぐ。

王 (横から) 【行為の指示】小川さん、それ、皮と骨を取って、適当に切ってください。

小川 【要求への了解】はい。【困惑の表現】お魚って、なんかねえ。(王、小川を見る) 【事情の説明】あ、お魚は、あんまり触ったこと、ないんです。(台所の方へ行きかけ) 【要求内容提示の要求】あの、切る大きさは?

王 【行為の指示】ええと、(指をあてて) これぐらいかな。切ったら塩こしょうしてくださいね。(小川、うなずく)

場面(3) 台所の流し。荒木夫人、プチトマトのへたを取り、ざるに入れて水をかける。後刻、同じ流し。朴、タマネギとニンニクをむいている。

場面(4) 後刻、ダイニングのテーブル。王、ぎょうざの皮をのばしている。隣で、山田、ニンジンを刻もうとしている。その隣で、小川、ぎょうざの中身を混ぜている。

山田 【要求内容提示の要求】王さん、ニンジンはどんなふうに切ります?

王 【行為の指示】ええと、(指で示す) 細長く。

山田 【要求への了解】あ、……千切りですね。(切ってみて、見せる) 【見解表明の要求】これくらいでいいですか。

王 【評価の表現】はい。

純子、学校から帰ってきてリビングのドアを開け、入ってくる。一瞬とまどった表情でドアを閉める。

王 (純子に気が付き) 【接觸の開始】あ、お帰り。(山田に) 【情報の提供】山田さん、純ちゃんです。

山田 (純子に) 【接觸の開始】情報の提供 山田です。

小川 (純子に) 【接觸の開始】こんにちは。【情報の提供】小川です。

荒木 (純子の後に立って肩に両手を置く) 【行為の指示】純子、ごあいさつは。

純子 (二人を見回しながら) 【接觸開始の受け入れ】こんにちは。(王の手元をのぞき込む)

荒木 【行為の指示】先に手を洗ってきなさい。

純子 【要求への了解】はい。(不満そうにランドセルを降ろし、荒木に渡して去る)

場面(5) 後刻、ガス台の前。荒木、小川、たらを揚げている。ダイニングのテーブル。王、純子、ぎょうざをゆでている。後刻、ガス台の前。朴、フライパンでビーフン炒めの具を炒める。山田、ざるに入ったビーフンを持ち上げる。

山田 【行為の申し出】いいですか。

朴 【行為の制止】ちょっとまってください。(入れながら) お酒、塩、砂糖。【行為のうながし】はい、いいですよ。

山田、ビーフンを入れる。朴、醤油を回す。山田、ごま油を入れようとする。

朴 【行為の制止】あ、ごま油は最後に。

山田 あ、そうですか。(ごま油をもどす)

場面(6) 6時すぎ。ダイニング。テーブルに、白身魚のあんかけ、ピーフン炒め、水ぎょうざ、卵スープ、チトマトののったサラダが並んでいる。

純子 【評価の表明】わあ、すごい。

王 【行為のうながし】さあ、食べましょう。

一同 【行為の合図】いただきまーす。

純子 (ぎょうざを食べる) 【評価の表明】うん、おいしい。

朴、山田、ピーフンを食べ、互いに指でOKサイン、Vサインを出す。

荒木 (たらを食べる) 【評価の表明】うん、おいしい。(小川に) うまくできましたね。(小川、大きくうなずく)

山田 (ぎょうざを取りながら) 【評価の表明】王さん、料理、上手ですねえ。(王、照れる)

小川 【提案の提示】そうだ、(朴に) 今度は韓国料理、教えてくださいよ。(一同、朴を見てうなずく)

朴 【要求への了解】そうですね。じゃあ、やりましょうか。

一同、談笑しながら食べている。

ユニット 2 「よくわかりました」

ユニット 2 「よくわかりました」は、情報のやりとりを開始し、うまく進めるための方法を学ぶことを最も主な学習内容としています。

ある情報を相手に伝えること、また、なにかを相手に尋ねて情報を得ることは、言語使用の最も基本的なはたらきのひとつです。しかし、実際には、そこでやりとりされる情報の内容が常に問題になるとは限りません。中には、単にことばを交わすことの方に重点のあるいわゆる「交話的」な場面もあって、その場合、本当に情報内容を目的とした談話とは、おのずから伝達の態度が変わってきます。このユニットでは、こうした交話的機能を目的とするのではなく、つまり、やりとりされる情報の内容が問題である場合の談話運用を学習することを主な項目として取り上げました。

情報を伝えること、また、情報を要求することは、普通、何らかの目的があって行われます。いきなり、「あなたは歌舞伎が好きですか」と聞かれれば、相手はとまどい、「ええ、好きですけど、どうして?」とか「余計なお世話でしょ」といった反応になるかもしれません。何のためにそんなことを言うのか、何のためにそんなことを聞くのかは、できるだけ早く明らかにする必要があります。また、その情報のやりとりの目的が依頼や謝罪であるなら低姿勢で、注意を与えることなら厳しい態度でというように、適切な話しぶりを最初から選択することも必要です。伝えるべき内容をわかりやすく順序だてることが必要であることは、言うまでもありません。

このユニットでは、そのような観点から、さまざまな場面における情報のやりとりの例を描きました。ユニット 1 で取り上げた接觸の開始ともあわせて、利用してください。

セグメント 11 川で—出会う— (ストーリーIV「恋人」(a))

登場人物 村井亜紀子 深沢良昭

場面(1) 9月上旬の土曜日午前8時半ごろ。東京郊外。大きな川沿いの土手の上のサイクリングロード。晴れ。亜紀子、土手の上を自転車で走ってくる。川の方を見ると、深沢、岸近くで柔軟体操をしている。亜紀子、そのまま走りすぎ、ジョギング中の男女とすれ違う。向こうの鉄橋を渡っていく電車。

場面(2) 同じ場所、小1時間後。フリスビーをする子供たち。亜紀子、コンビニのポリ袋を自転車の前かごに入れ、帰ってくる。野球帰りの子供たちとすれ違う。民謡の歌声。亜紀子、止まって川の方を見ると、深沢が練習中。突然強い風が吹き、深沢、歌をやめ、時計を見る。亜紀子、走り去る。

場面(3) 午後5時近く。川のそばの道。小さな子供たちが風船を持ち、はしゃぎながら通る。草むらでコオロギの声。亜紀子、スケッチブックを持ち、歩いてくる。深沢、ボート乗り場から空缶を持ち出し、ゴミ袋に入れている。亜紀子、川岸につながれている犬を見つけて近づき、しゃがんで写生しはじめる。亜紀子、深沢を見て口に指を当てて見せる。深沢、ほほえんでうなずく。深沢、ゴミ袋を持ち上げようとして手が滑り、大きな音がする。犬は深沢の方へ行ってしまい、亜紀子、深沢の方を振り向く。

深沢 **【陳謝の表明】**ああ、ごめんなさい。

亜紀子 (ほほえんで立ち上がる) **【情報確認の要求】**今朝、歌ってたでしょう。

深沢 え?

亜紀子 あれ、民謡ですか。

深沢 **【情報の確認】**ああ、聞いてました。サークルですね、民謡やってるんです。

場面(4) 同じ場所。日暮れ前。鉄橋を渡ってくる電車。深沢、ボート乗り場のおじさんにあいさつし、犬をなでて帰る。手前で待っていた亜紀子、いっしょに歩きだす。二人の後ろ姿。

深沢 (声のみ) **【情報の叙述】**ほんとは、プロになりたいんだ。

登場人物 クラウディア・ロッシ 池田洋子 鈴木和広

場面(1) 9月上旬の平日午前10時半ごろ。晴れ。東京ベイトピア場内を見下ろす丘の上の広場。池田とクラウディア、ヤングトラベルが企画中の日帰りツアーの下見のため訪ねてきて、鈴木に案内され説明を聞いている。海が見渡せ、足下にベイトピアの施設が広がる。クラウディア、カメラを持ち、時折写真を撮る。池田、いちいち手帳にメモをとる。

鈴木 (指さす) 【情報の提供】あの三角の屋根が水族館です。その右の方が港になってます。(池田、うなずき、メモをとる) 【行為のうながし】よろしかったら、こちらへ。

鈴木、先に立って丘を降る。ついていく池田。残るクラウディア。

池田 【行為のうながし】クラウディアさん。

クラウディア はい。(あとを追う)

港の情景。

場面(2) 3人、メリーゴーランドに近づく。

鈴木 (売店の前のベンチを指す) 【情報の提供】お昼は、一応ここで食べられるんですが。
クラウディア、一人でさらに入ります。

池田 そうですねえ。(食べている子供たちを見回す) アイスクリームに、焼きそばに、ハンバーガー、
……。(鈴木に) 【情報提供の要求】もう少し落ち着いて食べられるところはありませんか。

鈴木 【情報の提供】ええと、レストランは(指さす) 山の向こうに4軒あります。

クラウディア、二人のところへもどってくる。

クラウディア 【情報提供の要求】池田さん、タコ焼きて、和食ですか。

池田 和食? (鈴木と顔を見合わせ、咳払い。鈴木に) 【情報提供の要求】レストランって、どちらですか。

鈴木 【行為のうながし】あ、どうぞこちらへ。

池田、鈴木、クラウディアを残し歩きだす。

クラウディア (首をかしげる) 洋食じゃないなあ。……ま、いっか。(2人のあとを追う)
メリーゴーランド、遊園地の遊具、ジェットコースター。

場面(3) 後刻、海に面したレストランのテーブルで話す3人。クラウディア、パンフレットを見ている。

クラウディア 【情報の叙述】あ、おもしろそう。動物にえさをやるそうですよ。

池田 (のぞき込む) え、動物?

鈴木 【情報の提供】ペンギン、イルカ、シロクマ、あとは魚ですね。えさをやるところが見られるんです。
【行為の申し出】あとでご案内しますよ。

池田 お願いします。

コーヒーが運ばれてくる。クラウディア、外を見渡す。

クラウディア いい景色ですねえ。やっぱり海はいい。

鈴木 【行為の勧め】あ、そうそう、船にも乗ってみてくださいね。

池田 【要求内容提示の要求】船ですか。(チラシを見る) どこへ行くんですか。

鈴木 【事情の説明】島のまわりをまわるんです。(島の地図をさす) 気持ちいいですよ。

クラウディア 【要求への拒絶】わたし、ちょっと遠慮します。

池田 【説明の要求】どうして。

クラウディア 【事情の説明】わたし、船に弱いんです。

池田、鈴木、クラウディアを見る。

場面(4) 後刻、桟橋。クラウディアを引っ張って船に乗りこむ池田と鈴木。船上の3人。島を回る船。

登場人物 王崇 梁 山田康浩 学生A

場面(1) 9月上旬の水曜日、午後3時ごろ。南海大学国語学科研究室。山田、訪ねてきた王と話している。

王 【感想の叙述】ここは静かでいいですねえ。

山田 【見解への同意】ああ、教育学部の方は、グラウンドが近いから、ちょっとうるさいでしょう。国語学科の学部学生A、入ってきて山田に声をかける。

学生A 【接觸の開始】山田さん、あのう、……

山田、王の顔を見る。

学生A (気が付いて王に) あ、すいません。

王 【行為の勧め】あ、いいですよ。どうぞ。

学生A (王に) すいません。(山田に) 【見解表明の要求】ええと、川田先生のゼミ、出たほうがいいでしょうか。

山田 【説明の要求】ええ? どうして。

学生A 【事情の説明】心理学の講義と同じ時間なんで、迷ってるんです。

山田 【説明の要求】卒論は、なんにするの。

学生A 【事情の説明】明治時代の外来語です。

山田 【見解の表明】あ、それじゃ川田先生は3年生のうちに取った方がいいな。心理学は、4年になってからも聞けるからね。

学生A そうですか。【結論の確認】じゃ、やっぱり川田先生、出ることにします。【話題の収束】どうも。

(王に) 【接觸の終了】失礼します。

王、会釈する。学生A、出ていく。

場面(2) 王、山田に向きなおる。

王 【話題の開始】山田さん、わたしも相談していいですか。

山田 え、何ですか。

王 【事情の説明】ちょっとほしい本があるんですが、もう売ってないらしいんですよ。

山田 【説明の要求】図書館にも無いんですか。

王 【事情の説明】できれば国へ持つて帰りたいんで、古本屋でさがそうと思うんですけど、

山田 ええ。

王 【情報提供の要求】古本屋ってどこにあるんでしょう。

山田 【情報の提供】ああ、神保町に行けば、たくさんありますよ。

王 【情報提供の要求】じんぼうちょうって、どの辺ですか。

山田 ええっと、(立ち上がり、そばのホワイトボードに略図を書く) 【情報の提供】水道橋の駅から……

(王、バッグから手帳を出す) 歩いて、10分ぐらいですね。こっちが新宿、こっちが東京。

王 (メモする) 【話題の収束】はい。じゃ、行ってみます。

山田 ばくも、よく行くんですよ。(すわる) 【提案の提示】今度いっしょに行きましょうか。

王 【要求への了解】あ、ぜひお願いします。

山田 ええと、(ちょっと考える) 【提案の提示】あさって、どうですか。

王 (壁のカレンダーを見る) 【要求への拒绝】ええと、金曜日ですか。その日は、ちょっと……。

山田 じゃあ、来週は、(手帳を出して見る) ……【提案の提示】火曜の午後、どうですか。

王 【要求への了解】はい。(ちょっとカレンダーを見る) じゃあ、火曜日。(手帳に書く) 【事情の説明】金曜は、内田先生のお宅に招待されてるんです。

山田 へえ。

王 【見解表明の要求】先生のお宅にうかがうのは初めてなんですけど、どんなものを持っていったらいいでしょうか。

山田 【見解の表明】そうですねえ、高いものじゃなくていいですよ。(ちょっと考える) やっぱりお菓子がいいかな。

王 【見解表明の要求】あのう、お茶はどうでしょう。中国茶。

山田 【見解の表明】あ、いいかもしませんね。中国のお茶は日本でも人気がありますよ。

王 (首をかしげて考える) じゃ、そうしようかな。(山田、うなずく) 【情報提供の要求】ところで、山田さんは? 中国茶はお好きですか。

セグメント 14 お礼状? — 教わる — (ストーリー I 「勉強」(d))

登場人物 張玉萍 武田芳子 武田妙子

場面(1) 武田家の居間。張、芳子、座っている。母、盆を持って入ってくる。

母 【感想の叙述】毎日暑いですねえ。(コップをテーブルに置く) 【行為の合図】麦茶、どうぞ。

張 いただきます。

芳子(母に) 【情報の叙述】張さん、夏休みに信楽へ行ったんですって。

母 【情報の叙述】あら、わたし行ったことがないわ。

張 【情報の叙述】そうですか。よかったです。(包みを出す) 【行為の合図】これ、おみやげです。

母 (受け取る) 【感謝の表現】あらあ、どうもありがとう。【感想の叙述】重いのねえ。たいへんだったでしょう?

張 【行為のうながし】開けてみてください。

母 何かしら。

母、丁寧に包みを開ける。芸術的な花生けが現れる。母、花生けを手に持ち、感嘆のおももちでながめる。

母 まあ。

芳子 【感想の叙述】すてきねえ。

張 【事情の説明】友達がこういうのを作っていて、その人の作品なんです。

母 そう。【感想の叙述】立派な灰皿ねえ。

芳子、吹き出し、張を見る。張、困る。

張 【情報の提供】あのう、それ、……。(母、けげんな顔) ええっと、お花を……(花を生ける手つき)

母 あ、ごめんなさい。(改めて花生けを見る) 【情報提供への注目表示】そうね。灰皿には、ちょっと深すぎるわね。

場面(2) 後刻、同じ居間。ソファの脇に置かれた焼き物。母、梨をむいている。張、芳子、並んでおり、張の信楽旅行の写真を見ている。

張 【情報の叙述】わたしも、茶わんを作りました。友達に教わって。

自作の茶わんを持った張の写真。

芳子 へえ。

母 【情報叙述への共感】そのお友達には、ずいぶんお世話になったのねえ。【情報提供の要求】お礼状は、出したの?

張 お礼状?(母、うなずく) お礼の……、あ、手紙ですか。

母 そうぞ。【事情の説明】帰ってきたらすぐに書かなくっちゃ。

張 そうですかあ。(芳子に) 【見解表明の要求】ええと、どんなふうにかけばいいですか。

芳子 そうねえ。【見解の表明】ええっと……、その節はありがとうございました。

張 その節?

芳子 その時って意味ね。それから、【見解の表明】とても楽しかったです。遅くなつて、失礼いたしました。写真ができたので、お送りします。またいつか、おじゃましたいと思います。お元気で、とかね。

張 (もう一度、うなずきながら頭の中で復習する) 【話題の収束】はい。じゃあ、すぐにお礼状書きます。

母 (うなずき、振り向いて時計を見る) あら、もう5時。【行為の申し出】張さん、晩ご飯用意してありますからね。なんにもありませんけど。

張 (ほほえむ) 【感想】なにもないんですか。(母、にらむまね)

芳子 なんにもないけど、いろいろあるんですよ。

[*画面、文面要点のテロップ]

芳子のアドバイスによる手紙の文面
その節はありがとうございました
とても楽しかったです
遅くなつて失礼いたしました
写真ができたのでお送りします
またいつかおじゃましたいと思います
お元気で

セグメント 15 実は…… — 報告する — (ストーリーⅢ「仕事」(d))

登場人物 谷山治男 池田洋子 江口徹 エレン・ソウザ 販売促進部長

場面(1) 9月中旬の金曜日午後。ヤングトラベル企画課のオフィス。エレン、受信したファックスを読み、首をかしげる。

エレン 【説明の要求】池田さん、徳島のホテル、予約をキャンセルしましたか。

池田 ええっ？（驚き、ファックスを受け取り、読む。向かいの席の江口に）【情報提供の要求】江口さん、徳島のホテルの予約金、払ってないの？

江口 ええ？ ええっと、（ファイルを開き、以前のファックスを読む）料金の35%を9月5日までに……。しまった。【情報の提供】忘れてました。

池田 【行為の指示】とにかく、ホテルに電話してみて。急いで部屋を探さなくちゃ。

江口 はい……。（電話をかける。池田も電話をかける）

場面(2) 後刻。江口、池田、ことばを交わし、谷山の席に近づく。エレン、後から続く。

江口 （申し訳なさそうに）【話題の開始】課長、あのう、11月の四国ツアーナんですが、
谷山 うん。

江口 【情報の提供】あのう、徳島のホテルに予約金を払うのを忘れまして、

谷山 ええっ？

江口 キャンセルになってしまったんです。

谷山 【情報提供の要求】ホテルの担当は……、江口君か？

江口 【陳謝の表明】すいません！

谷山 【説明の要求】どういうことなんだ。

江口 【事情の説明】ええ、それが、先週、出張があつたり、えっ、いろいろと……。

谷山 【評価の表明】うーん、自分の仕事には責任を持つてもらわないとね。

江口 【陳謝の表明】はい、もうしわけありません。（頭を下げる）

谷山（池田、江口に）【情報提供の要求】それで、部屋は空いてないの？

池田 【情報の提供】徳島はもういっぱいのようです。高松ならまだ空いているそうですが。

谷山 しかたがない。（江口に）【行為の指示】じゃまず、高松のホテルを予約して。

池田 【提案の提示】それからバス会社に連絡します。

谷山 うん。【行為の指示】エレンさんは、新しいスケジュール表の用意を頼む。

エレン わかりました。

谷山（ひとりごと）一応、部長にも話しこう。

江口（最敬礼）【陳謝の表明】もうしわけありません。

場面(3) 直後、部長室入り口。谷山、やってきてノックする。

谷山 失礼します。

部長 はあい。

谷山 【話題の開始】実は、11月の徳島のことなんですが、

部長 【話題開始の受け入れ】うん？（目を上げる）なんか、まずいこと？

登場人物 朴海煥 電器店員

場面(1) 9月中旬の日曜日。電器店内のワープロ売場。朴、並んでいるワープロを見て歩き、カタログを集め。店員、別の客に梱包した品物を渡す。

店員 お待たせしました。(客を送り出す)【接觸の終了】どうもありがとうございました。

店員、朴を見つけ、近づく。

店員【接觸の開始】ワープロですか。

朴ええ。

店員【意向表明の要求】ええと、ご予算はどのくらい。

朴まあ、安い方がいいですけど。

店員【説明の要求】メーカーは、決めてらっしゃいますか。

朴いや、別に考えていません。

店員【説明の要求】どういったことにお使いになるんですか。

朴【事情の説明】ええっと、レポートを書いたり、資料を作ったり。

店員 そうですか。(並んでいるうちの1台を指す)【行為の勧め】これどうでしょう。【事情の説明】イラストが書けるし、カラー印刷とか、機能が多いんですよ。

朴 イラストお。(手元のカタログからその機種のものを見つけ、読む)【要求への拒絶】ううん、イラストは書かないと思います。

店員 そうですか。【行為の勧め】じゃあ、(別の1台を指す)これはいかがですか。10万8千円で、けっこう安いですよねえ。先月出たばかりです。

朴【意向の表明】あのう、ハングルが使えるのはありませんか。

店員【困難の表明】えっ、ハングル。(カタログをとり、めくってみる)それはむずかしいですねえ。ワープロでハングルはねえ。【見解の表明】パソコンにワープロソフトを乗っける形なら、使えるのがあるかもしれませんけど。

朴【説明の要求】え? パソコンに……。

店員【事情の説明】ワープロのソフトウェアですね。パソコンの上でワープロソフトを走らせるわけですけど。

朴【説明の要求】ソフトっていうと、どんな。

店員(早口に)【事情の説明】ええ、日本語のワープロは日本語しか使えませんから、ハングルと日本語が使えるワープロのソフトをパソコンに乗せて使うわけですね。

朴【話題の収束】ううん、ちょっとわかりませんから、友達に教えてもらってからにします。また来ますから。

店員【接觸の終了】すいません。じゃ、よろしくお願いします。(朴、行きかける)【接觸の再開】ああ、ちょっとすいません。(朴、振り返る。店員、カタログを出して渡す)【行為の合図】これ、ご参考に。ワープロソフトは、たとえばこんなのですから。

朴ああ、どうも。(カタログを見ながら去る)

店員(頭を下げる)【接觸の終了】ありがとうございました。

セグメント 17 それでOK! — 説明する — (ストーリーⅢ「仕事」(e))

登場人物 エレン・ソウザ 江口徹 浅野交通営業課長 浅野交通社員

{この場面の音声は、主音声にエレンの声、副音声に江口の声が録音されています。両方のチャンネルを同時に再生して談話の流れを観察したり、一方のチャンネルだけを再生して他方の発言内容を推測したり、一方の役割を演じるなどの形で利用してください}

場面(1) 平日の昼休み、ヤングトラベルのオフィス。エレン、デスクで弁当を食べようとしている。電話が鳴り、エレン、ボタンを押して取る。

エレン 【接觸開始の受け入れ】はい、ヤングトラベル企画課でございます。

江口 あ、江口だけど。

エレン ああ、江口さん。

浅野交通のオフィスにいる江口。

江口 【行為の依頼】今ね、浅野交通さんにいるんだけど、ちょっと資料をファックスしてほしいんだ。ヤングトラベルのオフィスに一人のエレン。

エレン 【困難の表明】今、わたししかいないんです。ファックスの使い方、よくわからないんですけど。

江口 うん、大丈夫。簡単だよ。【行為の指示】僕の机の上の山形県のホテルリスト。

エレン ええと、ちょっと待ってください。（電話を保留し、江口のデスクの上から紙を取り、ファックスのそばの電話を取る）【要求内容確認の要求】はい。これを、送るんですね。

江口 うん。【行為の指示】まずそれをファックスに乗せて、コピーみたいに。

エレン（ひとりごと）コピーみたいに？（原稿を裏返すと、メモが書いてある。資料の面を上に向けてファックスにセットする）はい、乗せました。

江口 【情報の提供】じゃあ、番号はね、ええと、よんきゅうゼロななの、ごおにいいいちいち。

エレン はい。（ダイヤルボタンを押しながら）4, 9, 0, 7, 5, 2, 1, 1.

江口 【情報の要求】番号が出た？

エレン 【情報の提供】はい。（ファックスのディスプレイに表示された番号を読む）49075211。

江口 【行為の指示】よし、じゃあ、送信っていうのを押して。

エレン 【要求内容確認の要求】ええと、この大きいボタンですね。

江口 うん。（エレン、送信ボタンを押す。原稿を読み込むファックス）【情報の要求】どうなった。

エレン（ディスプレイを見る）【情報の提供】ソウシンチュウって出ました。

江口 【話題の収束】あ、じゃそれでOKだ。どうもありがとう。

エレン 【接觸の終了】はい。それじゃ。（電話を切る）

場面(2) 直後、浅野交通のオフィス。江口、課長と話している。ファックスに着信。

課長 【意向確認の要求】18日が3台、19日が3台、20日が4台ですね。

江口 【意向の確認】はい、それだけこうです。

浅野交通社員、ファックスを取って読み、にやにやしながら、課長に近づく。

社員 【行為の合図】課長。（ファックスを渡す）

課長（読む）9月26日、美香誕生日。6時、四谷ミステイ。（ファックスを江口に渡す）【感想の叙述】い

いなあ、若い人は。

唖然とする江口。

セグメント 18 就職 —様子をきく— (ストーリーIV 「恋人」(b))

登場人物 村井亜紀子 深沢良昭 レストラン店員

場面(1) 9月中旬の金曜日夕刻、駅のコンコース。深沢、亜紀子を待っている。会社訪問でもらってきた社内報をめくる。腕時計を見る。ショーウィンドウに自分の姿を映し、ネクタイをなおす。脇に立つ亜紀子が映る。振り向くと亜紀子がいる。

亜紀子 【接觸の開始】ごめんなさい。授業が長くなっちゃって。

深沢 行こうか。

亜紀子、うなずき、二人、歩きだす。

場面(2) 後刻。レストラン。テーブルに向かいあって座る二人。

亜紀子 (テーブルに置かれたメニューを見る) あ、キウイのワインがある。

深沢 【提案の提示】飲んでみようか。

亜紀子 うん。(こちらを見る) 【情報叙述の要求】今日もあの広告会社ですか。

深沢 【情報の叙述】うん。道南情報。(メニューを見る)

亜紀子 【説明の要求】どこにあるんですか。

深沢 (亜紀子を見る) 【事情の説明】中野の方。本社は北海道の、ええと、札幌で、(メニューを見る) 中野は支店だって。(亜紀子を見る)

店員 【意向表明の要求】お決まりですか。(亜紀子、見上げる)

深沢たちのテーブルと脇に立つ店員。店員、メニューを持って去る。隣のテーブルのカップル。向かいの亜紀子。

亜紀子 (立ちかけながら) 【接觸の中斷】すいません。ちょっと。

深沢 ああ。

亜紀子、席を立つ。

場面(3) 後刻、同じ場所。向かいに座っている亜紀子。

亜紀子 (目を上げてすぐ伏せる) 【情報叙述の要求】就職、決まりそうですか。

深沢 【情報の叙述】うん。たぶん、今日のどこに入ると思うな。

亜紀子 (目を伏せたまま) 【説明の要求】じゃあ、歌手はあきらめるんですか?

深沢 (手元のグラスを見て、亜紀子を見る) 【裏構の説明】それは夢さ。(亜紀子、ちらっと見る) 歌手なんっても、生活できないよ。(再びグラスを見て亜紀子を見る) ……歌は、続けるよ。

亜紀子 (キウイワインを一口飲む。目を伏せたまま) 【説明の要求】……北海道行っちゃうんですか。

深沢 (隣のカップルに目をそらし、もう一度亜紀子を見る) 【事情の説明】まだわからないよ。あの会社に就職したら、たぶん、研修は札幌だろうけど。そのあと、どこへ行くことになるかわからない。

亜紀子 (上目遣いに深沢をにらみ、小声で) 【意向の表明】東京にいて。

深沢 (亜紀子の方に少し顔を近づけ) だいじょうぶだよ。

亜紀子、こちらを見つめる。

セグメント 19 校外学習—話し合う— (ストーリーI 「勉強」(e))

登場人物 張玉萍 後藤紀子 パチャリー・ラタナーワン ロイド ミーチャ アレミン
アルバー ダナヤー

場面(1) 9月中旬の水曜日午後1時間目、日本語学校の教室。学生たち、座っている。後藤、教卓のところに立っている。黒板に「校外学習について」の板書。

後藤 **【意向の表明】** 来月の校外学習について、みなさんの意見を聞きます。（黒板の文字を指しながら） **【事情の説明】** 校外学習というのは、学校の外で勉強するということです。予算は一人2500円です。みなさん、どこへ行きたいですか。

ロイド **【意向の表明】** カラオケがいいです。日本語の勉強になります。

ミーチャ **【意向の表明】** わたしは、歌が下手ですから、ボーリングの方がいいです。

アルバー **【意向の表明】** あ、ディスコもいいですよ。

後藤 **【意向への不同意】** ボーリングやディスコは勉強になりますか。

アレミン **【意向の表明】** じゃ、動物園はどうですか。

張、手をあげる。

張 **【提案の提示】** みんなで話すより、グループに分かれて意見をまとめたらどうでしょうか。

後藤 **【要求への了解】** え、それがいいですね。

場面(2) 直後。学生たち、グループに分かれて話し合っている。張、パチャリー、ロイドのグループ。

張 **【事実の指摘】** 10月は台風が来るかもしれないから、雨が降っても行けるところがいいと思うんです。

パチャリー **【事情の説明】** あのう、この間、友達が水族館に行ったんです。魚がたくさんいて、とてもきれいだったそうです。

ロイド **【説明の要求】** どこの水族館ですか。

パチャリー **【事情の説明】** 葛西です。東京駅から電車で10分ぐらいです。

張 **【評価の表明】** 近いし、雨が降っても行けるし……、勉強になりますよね。（3人、首をかしげる）

ロイド（決心したように） **【見解の表明】** んー、水族館にしましょう。（張、うなずく）

場面(3) 後刻、グループごとの結果発表。立って発表するミーチャ。

ミーチャ（メモを読む） **【提案の提示】** わたしたちは、日光へ行くのがいいと思います。日光には有名な神社があります。10月はもみじがきれいです。山にのぼったり、湖でボートに乗ったりすると、楽しいと思います。

ロイド **【説明の要求】** 雨が降ったらどうするんですか。

ミーチャ **【見解の表明】** 雨は降らないと思います。（学生たち、ざわつく） 雨が降ったら、日光でボーリングをしましょう。（一同失笑）

張 **【事実の指摘】** 日光は、かなり遠いんじゃないかなと思いますけど。

ロイド **【事実の指摘】** それに、お金が足りないでしょう。

ミーチャ **【事情の説明】** それが問題です。たぶん、一人2000円ぐらい集めなければなりません。

一同 えー？

場面(4) 直後、立って発表するパチャリー。

パチャリー **【提案の提示】** わたしたちは、水族館がいいと思います。東京駅から電車で10分ぐらいの葛西というところにあります。近いし、雨が降ってもだいじょうぶです。近くの海岸で遊ぶこともできます。

ミーチャ **【意向の表明】** わたしはその水族館へ行ったことがありますから、もういいです。

パチャリー **【見解の表明】** でも他の人は行ったことがありません。

直後、後藤、教卓の前に立っている。

後藤 **【行動の指示】** では、手をあげて決めましょう。まず、日光へ行きたい人は、手を上げてください。

.....

ミーチャ、一人だけ手を上げる。

セグメント 20 花火 (映像素材(b))

{「映像素材」は、教授者・学習者が自分で作成した音声を付け加えたり、画像に写っている事物そのものを手がかりとして教室活動を組み立てたりすること目的としています。副音声にはナレーションが録音されていますが、これは参考にすぎません。主音声だけを再生する、無音で再生する、別に会話やナレーションを用意して副音声に入れるなど、使用目的に応じて自由に使用されることを想定しています}

登場人物 青年 女の子 お寺の住職 住職の奥さん おばあさん 子供たち

映像・主音声	副音声
<p>場面(1) 9月中旬のある日、夜8時ごろ。田舎道を走ってくるオートバイ。青年、オートバイを止めて地図を調べ、困ったように辺りを見回す。走るオートバイ。水田の向こうにお寺の森がこんもりと見える。寺への道を登るオートバイ。庫裏の入り口で奥さんと話し、中へ入っていく青年。境内の観音像。</p>	<p>ナレーション ぼくはバイクで旅をしていました。その日は友達のいえに泊めてもらうつもりでしたが、道がわからなくなってしまいました。一軒のお寺をみつけたので、中に入っていました。お寺の人に頼んで、一晩泊めてもらうことにしました。</p>
<p>場面(2) 本堂の中。ふとんが敷いてある。青年、荷物を整理してから縁に出て座る。</p> <p>青年 ああ、疲れた。</p> <p>軒先に見える月。墓場の塔婆や石仏。</p>	<p>ナレーション お寺の人は、広いたたみのへやにふとんを敷いてくれました。秋の虫が鳴っていました。月がきれいでした。涼しい風が吹きました。少しこわくなりました。</p>
<p>場面(3) 本堂の縁に座る青年の肩に、突然だれかが手を置く。驚いて振り向くと、浴衣を着て花火を持った女の子。</p> <p>青年 ああ、驚いた。君だれ? このうちの子?</p> <p>女の子、手に持った花火を差し出し、やろうとせがむ様子。</p> <p>青年 花火やりたいの?</p> <p>女の子、庭に降り手招きする。青年、庭に降り、近づく。</p> <p>女の子、青年にマッチを渡し、しゃがむ。青年、マッチをすり、花火に火をつけてやる。女の子、花火をながめてから、青年に花火を差し出す。</p> <p>青年 ぼくにもくれるの? ジャア、いつしょにやろうか。</p> <p>青年、花火をとり、火を移す。花火を見つめる女の子。</p>	<p>ナレーション だれかが肩にさわりました。</p> <p>それは、一人の女の子でした。</p> <p>女の子は、浴衣を着て、手に花火を持っていました。女の子は、花火をやりたがっていました。火をつけてやると、女の子はとてもうれしそうでした。</p> <p>それから、ぼくたちは、何本も何本も花火をしました。</p>
<p>場面(4) 翌朝。青年、ふとんの中にいる。起き上がってあたりを見回す。</p> <p>青年 あれ、いつ寝ちゃったんだろう。</p> <p>朝の寺。福の実ったたんば。コスモスの花。</p>	<p>ナレーション 目が覚めると、ぼくはふとんの中にいました。</p>
<p>場面(5) お寺の庫裏。住職の一家といっしょに朝食を食べる青年。おばあさん、茶わんと汁椀を盆に乗せ、部屋の隅の仏壇に運ぶ。青年、振り向いて見る。おばあさん、お供えを仏壇に上げ、りんを鳴らし、手を合わせて拝む。驚く青年。仏壇に、浴衣を着て花火を持った女の子の写真。</p>	<p>ナレーション お寺の人といっしょに朝ご飯を食べました。部屋の隅には、仏壇がありました。</p> <p>仏壇には、小さな写真がおいてありました。</p>

ユニット3 「とてもいいですね」

ユニット1、2を通して、相手や状況に応じて、適切なやり方でコミュニケーションを開始し、情報を求めたり伝えたりするやり方を学習してきました。このユニット3では、それらの学習を踏まえて、伝えるべき内容をことばで的確に言い表わすこと、聞き手やその場の状況に応じて、適切なやり方で情報を配列すること、そのために用いることばを適切に使い分けること、周囲の状況に応じて、ことばだけでなく、総合的なコミュニケーションのやり方を調節することなどを学習します。

ある情報を伝えようとする時は、その内容を相手がすでに知っているかどうか、その内容が相手にとってどんな意味を持つか、といったことに配慮しなければなりません。「先生は外国へ行ってしまうんです」のような形は、相手がそのことを知らないと予測する場合に用い、「ねえ、これ、ガラスでしょ?」という形は、相手にその知識があると予想することを表します。

逆に相手に質問して情報を引き出そうとする時には、自分にどこまでの知識があって、知りたい情報はどこからなのかを表示することが有効です。「これは振り袖っていうんですか?」という質問は、振り袖以外の着物の種類についてさらに教えてくれるよう要求する表現として用いることができます。

また、多少複雑な内容を聞き出すような場合、そのことがらを何段階かに分けて順次尋ねていく談話構造を意識することも必要です。相手がどんな本を探しているのかを尋ねるには、何に関する本か、貿易についてなら、その品目についてか手段についてか、日本語の本でいいか、候補をあげて、それでいいか、といった順に尋ねていくことによって、効率の良い伝達を行うことができます。

さらに、原稿を読んでくれるよう頼まれて、その分野の知識が無いとか自分の原稿で忙しいということによって断ったり、図書館の本を閲覧室で読むかときかれて、時間がないと述べることで借りていく意志を伝えたりするように、相手との摩擦を避ける間接的な表現での意思表示にも、触れておくことが必要でしょう。

こうした相手の状態に対する配慮の典型的な表れが、いわゆる「待遇表現」の使い分けです。ウチ/ソトによる敬語の使い分けなどは、その代表的な例ですが、そうした敬語の専用語彙や言い回しだけでなく、上に触れたようなさまざまな表現行動が、全体として相手に対する配慮を反映し、結局は相手をどのように「待遇」するかを表すことに注意が必要です。

もとより、言語形式や非言語行動の中にこのような対人的な配慮を反映させることは、ユニット1で扱われた伝達行動開始の方法の例やユニット2での情報内容の叙述形式の選択例の中にも観察されるものです。ユニット1、2にさかのぼって、そうした観点で見直してみることも、有効な学習になるはずです。

セグメント 21 海の底 — ことばで表す — (ストーリーII「友達」(g))

登場人物 王崇梁 山田康浩 朴海煥 小川明美

場面(1) 2月初めの休日、昼前。水族館前。子供連れの客などが次々に入していく。

場面(2) 水族館内、海底フロア入り口。王、山田、朴、小川、入ってくる。ガラスのトンネルの上は大水槽。

小川 (見上げ、見回して) わあ。

山田 へええ。

朴 【感想の叙述】おもしろい。海の底にいるようですねえ。

一同、上や周りを見回す。

小川 (山田に) 【困惑の表現】ねえ、これ、ガラスでしょ。壊れないかな。

山田 まさか。

王 【見解への同意】でも、やっぱりこわいですよね。

朴 (ガラスの縦目を指す) 【見解への同意】こういうところ、どうやって付けてあるんでしょうねえ。

小川 いやあだ。やめてくださいよお。(一同、笑う)

場面(3) 小川、王、水槽の中を見回している。

小川 (指で指す) 【感想の叙述】あ、あれ、きれいねえ。とってもスマート。(王、目で追う) 【情報提供の要求】なんていう魚かしら。

王 【情報提供の要求】ええと、どれですか。

小川 【事情の説明】ほらほら、あそこ。(指さす) わりに大きくって、銀色で、しっぽの方に黄色い線がある。

王 ええと、黄色い線。(説明のプレートを見る) 【情報の提供】あ、これでしょう。(指さす) シマアジだそうですよ。

小川 【情報提供への注目表示】ええ？(プレートを横からのぞく) あれがシマアジ。お刺身にすると、おいしいのよね。

山田と朴、やってくる。

王 【情報の提供】あれは、(別の魚を指す) マダイでしょう。

小川 (目で追う) 【情報提供への注目表示】どれどれ。タイもおいしいんですよ。

朴 【情報確認の要求】小川さん、魚の料理はしないんでしょう。

小川 【情報の訂正】朴さん！もう。最近は、やってるんですよ。カレイとか、タコとか。(画面を分割で海底のカレイ、岩の上のタコの映像)

山田 【情報確認の要求】ウナギとかね。(同じくウナギの映像)

小川 【情報の確認】そうそう。目がない魚ね。

王 (朴と顔を見合わせる) 【説明の要求】目がない魚？

山田 【事情の説明】ほら、カレイもタコも、切って売ってるでしょう。(それぞれの絵、切り身のパック、タコブツ、蒲焼きに変わる)

小川 【事情の説明】だって、魚の目って、気持ち悪いんですよ。

王、朴、納得する。一同、水槽に目をやる。

朴 (泳いでくるサメを指さす) 【情報提供の要求】あ、あれ、日本語で何と言いますか。

山田 え、あれですか。【情報の提供】ええと、サメですね。そうそう、カマボコはサメから作るそうですよ。

朴 へえ。(別の魚を見つけ、そばのプレートを見る) 【感想の叙述】マルコパン？変な名前ですねえ。

山田 【見解の表現】ええっと、マル・ゴ'パンでしょう。小判って、ほら、昔のお金。(手で小判形を作る。小判の絵が重なる)

朴 【見解への同意】あ、そうか。丸い小判みたいだからですね。

場面(4) 一同、「イルカの窓」から泳ぐイルカを見ている。

小川 【感想の叙述】いいなあ。わたしも、早くイルカといっしょに泳げるようになりたあい。

山田 【説明の要求】え、イルカといっしょに？

小川 【事情の説明】あ、わたし、最近ダイビングを習ってるの。

山田 【情報提示への注目表示】へえ、知らなかった。

小川 【情報の叙述】コーチが、ハンサムな人でねえ。

山田 (むっとして) なんなの、それ。

王 (にやにやする) 【行為の勧め】山田さんも、ダイビング習わなくちゃ。

朴 【意志の表現】僕もやってみようかな。

小川 ええ。【行為の申し出】わたしが行ってるスクール、紹介しましょうか。

4人の間に子供が割り込んでくる。通り過ぎるイルカ。

セグメント 22 少々お待ちください — 応接 — (ストーリーⅢ「仕事」(f))

登場人物 クラウディア・ロッシ 江口徹 社員A 山内孝雄 橋本しづ子(声のみ)

場面(1) 2月中旬の平日、午前11時ごろ、ヤングトラベル企画課のオフィス。社員A、入ってきて、室内を見回す。

社員A 【情報提供の要求】ええっとお、(江口に)池田さん、いらっしゃいます?

それぞれの席で仕事中の江口とクラウディア、社員Aを見上げる。

江口 【情報の提供】あ、ごめん。今日は、朝から出かけてる。帰ってこないと思うな。

社員A 【情報提供の要求】あ、そうですか。あしたは。

江口 【情報の提供】午前中は、いるはず。

社員A はい。どうも。(出していく)

江口 うん。

場面(2) 同じ日の午後。サクラツアーズの山内、カウンターで室内に声をかける。

山内 【接觸の開始】ごめんください。(室内の一回、顔を上げる)サクラツアーズの山内でございますが、……(クラウディア、立ち上がり、カウンターに近づく)【行為の依頼】池田さんは、いらっしゃいますでしょうか。

クラウディア 【事情の説明】申し訳ありません。池田は、今日外へ出ておりますが。

山内 【説明の要求】あ、(室内を見回す)今日ですね、あのう、2時のお約束だったんですが……。

クラウディア はあ。(室内を振り返り、部屋に入ってくる江口を見つけ、山内に)【接觸の中斷】少々お待ちください。(江口に)【要求内容提示の要求】江口さん、(手で示して)サクラツアーズさんなんですかと、(江口、山内、互いに目礼しあう)池田さんから聞いてますか。

江口 (クラウディアに)【行為の指示】あ、聞いてる、聞いてる。応接室へご案内して。

クラウディア はい。

クラウディア、カウンターにもどる。

クラウディア 【接觸の再開】失礼いたしました。(手で指して)【行為の指示】こちらでちょっとお待ちください。

クラウディア、先に立って応接室に向かう。山内、軽く頭を下げ、続く。

場面(3) 後刻、午後2時28分。電話が鳴り、江口、受話器をとる。

江口 【接觸開始の受け入れ】はい、ヤングトラベル企画課でございます。

橋本 【行為の依頼】あのう、谷山さん、いらっしゃる?

江口 【接觸の中斷】ええ、(室内を見回し)少々お待ちください。(受話器を押さえ、江口に)【情報提供の要求】クラウディアさん、課長は?

クラウディア 【情報の提供】あ、ええと、(顔で指す)トイレだと思います。

江口 (電話に)【接觸の再開】お待たせいたしました。【事情の説明】ただ今、ちょっと席を外しておりまして、すぐもどると思いますが。

橋本 【接觸の終了】あらあ、じゃあ、またかけます。

江口 【接觸終了の受け入れ】申し訳ございません。【行為の申し出】何かお伝えいたしましょうか。

橋本 【申し出の拒绝】いえっ、結構です。

江口 【接觸終了の受け入れ】はい、よろしくお願ひいたします。(橋本が切るのを待って受話器を置く)

登場人物 張玉萍 図書館職員

場面(1) 2月15日午後4時ごろ。日本語学校近くの公共図書館の読書相談カウンター付近。張、近づいて職員に声をかける。

張 【接觸の開始】すいません、……。

職員 はい。

張 【事情の説明】あのう、日本がアジアから輸入している物のことを調べているんですが。

職員 あ、貿易ですか。

張 【情報提供の要求】はい、何かわかりやすい本はないでしょうか。

職員 (張をうながして、経済書の書架の方へ行きながら) アジアからの輸入についてわかりやすく書いた本。……(書架の間を歩きながら) 【説明の要求】うーん、輸入というと、どんな物を輸入しているかとか、どうやって運ぶかとか、いろいろな問題がありますよねえ。

張 【事情の説明】ええ、特に、東南アジアからの輸入品の種類のことを。

職員 ……そうですね。(書架の本を見回す) 【説明の要求】日本語でいいんですね。

張 【事情の説明】はい。できるだけ新しいのを……。

職員 【情報の提供】こんなのはどうですか。(1冊出して見せる)

張 【情報提供への注目表示】ええと、(本の表紙を読む)「アジアの経済と日本」、現代経済研究所編。
(中を開いてみる)

職員 【情報の提供】それから、これもいいかも知れません。(別の本を出して見せる) 工業製品については、これがいちばん詳しいと思いますよ。ええ、(奥付を見る) 3年前だから、ちょっと古くなっているかも知れませんけど。

張 (本を受け取る) 【意志の表明】あ、でも、一応見てみます。

職員 【意向表明の要求】ええと、(閲覧室を指す) ここで見ますか。それとも、借りてゆきますか。

張 (時計を見る) 【意向の表明】ええと、ちょっと時間がないので、

職員 【行為の指示】じゃ、(カウンターの方を指す) こちらへどうぞ。(先に立ってカウンターの方へ戻る)

張 はい。ありがとうございます。(後に続く)

職員 (振り返り) 【行為の勧め】あと、その本の参考文献のリストを見ると、もっといろんな本が出ているでしょう。

場面(2) 貸し出しカウンター。

職員 (カウンターの中にすわりながら) 【行為の指示】それじゃ、ちょっと貸してください。

張 はい。(本を渡す)

職員 【行為の指示】貸し出しカードはありますね。

張 はい。(財布から出し、渡す)

職員 (貸し出しカードのバーコードと本のバーコードをリーダーでなぞり、本に返却日票をはさみ、カードといっしょに張に渡す) 【行為の合図】はい、どうぞ。

張 (受け取る) どうも。

職員 【行為の指示】貸し出しは2週間ですから、3月ついたちまでに返してください。

張 はい。【接觸の終了】どうもありがとうございました。(去る)

職員、端末のキーボードを打つ。

登場人物 張玉萍 パチャリー・ラタナーワン ミーチャ 図書館の利用客たち

場面(1) 2月中旬の平日、午後4時ごろ。日本語学校近くの公共図書館閲覧室。張、パチャリー、調べ物をしている。室内に5~6人の利用客たち。ミーチャ、書架の間から入ってくる。

ミーチャ (張たちをみつけ、近寄りながら声をかける) 【接觸の開始】ああ、張さん。

室内の人々、一斉にミーチャと張たちを見る。

張 (小声で) 【接觸開始の受け入れ】どうかしたんですか。

ミーチャ (あわせて小声になる) 【情報の提供】知っていますか。後藤先生は、外国へ行ってしまうそうです。

張 (パチャリーと顔を見合させる) 【情報提供への注目表示】へえ。知りませんでした。

パチャリー 【説明の要求】どこですか。

ミーチャ 【事情の説明】アデレードだそうです。

張 (パチャリーに) 【説明の要求】アデレードって、どこですか。

パチャリー 【事情の説明】オーストラリアです。(張、うなずく)

ミーチャ (声が大きくなる) 【事情の説明】2月の終わりに行ってしまうんです。(張、パチャリー、顔を見合せる。大声で) 【評価の表明】私は最後まで後藤先生に習いたい。(テーブルの辞書をこぶしでたたく。まわりの人々、一斉にこちらを見る)

張 (見回してささやく) 【行為の制止】ミーチャさん。

ミーチャ、見回して首をすくめ、手で口を押さえる。

場面(2) 直後。図書館の玄関前。張、パチャリー、ミーチャ、駆け出していく。

張 (ミーチャに) 【評価の表明】もう、ミーチャさんたら、声が大きいんだから。(パチャリーに) ねえ。(パチャリー、うなずく)

ミーチャ すみません。【評価の表明】でも、とても残念ですね。

張 【見解の表明】先生が行きたいなら、しかたがないでしょう。

パチャリー (手を打って) 【提案の提示】先生が出発する前に、パーティーをしましょう。

張 【要求への了解】あ、そうですね。送別会。

パチャリー (うなずく) そうべつかい。

ミーチャ (思いつめたように) 【要求への了解】うん、やりましょう。【提案の提示】いつにしますか。来週の金曜日はどう？

張 【事実の指摘】先生の都合をきかなくちゃ。外国へ行く前だから、とても忙しいはずですよ。

ミーチャ (うなずく) 【見解の表明】あした、学校できいてみましょう。【見解表明の要求】場所は？ どこがいい？ プレゼントは、何がいい？

張 そうねえ。

ミーチャ 【提案の提示】そうだ、(むこうに見えるビルの上方をさす) あのビルの中においしいロシア料理の店があるんです。

張、パチャリー、指された方を見上げる。ミーチャ、指したまま熱弁を振るう。張、パチャリー、その方を見上げながら聞いている。しだいに通行人が立ち止まり、その方を見上げだす。5、6人の人ばかりになり、気付いた張、二人を引っ張ってこっそり抜け出す。通行人たち、何もないでの、散っていく。ビルの横をUFOが飛ぶ。

登場人物 村井亜紀子 深沢良昭 杉山直樹

場面(1) 3月初め、金曜日の夕刻6時すぎ。板橋経済大講堂入り口。「板橋経済大学民謡研究会卒業演奏会」の立て看板。三々五々入っていく学生、OB、父兄たち。

アナウンス 次は、経済学部4年、深沢良昭君。曲は、南部牛追い唄。尺八伴奏は、商学部3年、杉山直樹君です。

{この場面の音声は、主音声に深沢の歌と会場内の音、副音声には、画面に現れる早春の山野の風景に伴う音が録音されています。}

場面(2) 暗くなった会場の中。舞台上手から深沢と杉山、登場、礼。拍手。会場後方のドアを開けそっとすべり込む亜紀子。杉山、上手やや奥のマイクの前に立って前奏を吹きはじめる。亜紀子、ドアにもたれて、演奏に聞き入る。深沢、歌いはじめる。

[*南部牛追い唄]

田舎なれどもさアはアエ 南部の国はさ
西も東もさアはアエ 金^{カニ}の山 こらサンサエ
今度来るときさアはアエ 持て来てたもれや
奥の深山のさあはアエ ナギの葉を こらサンサエ

亜紀子の横顔にオーバーラップして早春の山野の風景。

雪山。木から落ちる雪。雪解けのしづく。せせらぎとミズバショウの芽、フキノトウ。ネコヤナギの芽。セキレイ。空に伸びる木の芽。木の枝の小鳥。道沿いの水路と水車。ツクシ。山村の風景。農家の隣側の年寄りと子供。しろかきをする農夫と馬。桜の咲きはじめた山裾。

歌が終わり、拍手が起こる。我に帰る亜紀子。深沢、杉山、礼をする。拍手する亜紀子。

登場人物 張玉萍 パチャリー・ラタナーワン 武田芳子 貸衣装屋店員

場面(1) 3月上旬の平日午後。貸衣装店。店内入り口付近のカウンター。張とパチャリー、卒業パーティーで着る振り袖を借りるために、芳子に連れて来ている。カウンターに着付けの仕方を示す写真。

店員 (写真を指しながら) 【情報の提供】お着物と、帯と、襦袢と、あとひもなんかはお貸ししますので、足袋はお客様の方で用意していただけますか。

芳子 (張・パチャリーに) 【事情の説明】襦袢って、下着ね。(張、パチャリー、うなずく)

場面(2) 張、パチャリー、それぞれ振り袖をはおり、鏡を見ている。

パチャリー (裾を持ち上げながら) 【説明の要求】これ、長すぎますね。

店員 【事情の説明】あ、あとですそを持ち上げるんですよ。(張が着ている振り袖でやってみせる) ここをひもでしめて。その上にこれ(あたりに置いてある伊達締めを指す)をしめて、帯をしめて、帯締めをしめると。

パチャリー わあ、しめて、しめて。

張 【説明の要求】ひもとか、帯とか、全部で何本ぐらいしめるんですか。

店員 【事情の説明】ま、そんなにたくさんじゃありません。5、6本ぐらいですね。

パチャリー 【情報提供への注目表示】5本!(張、パチャリー、顔を見合わせる)

場面(3) 張、前を合わせて鏡を見る。

張 【情報提供の要求】えりは、どんなふうにすればいいですか。

店員 【情報の提供】後ろを少し抜いて、

張 【説明の要求】抜いて、っていうのは……。

店員 【事情の説明】こういうふうに(やってみせる)ちょっと開けるんですね。

張 はあ。

店員 【事情の説明】そして、前はこのくらい。(合わせてみせる)

場面(4) パチャリー、着ている振り袖をそのまま脱ぎ捨てて他のを着てみようとする。まず片袖を通して着ようとする。

店員 【行為の指示】まず、こうして、(取り上げ、肩にかけてやりながら)肩にかけてから、手を入れてくださいね。

張、芳子を振り向く。

張 【見解表明の要求】どうですか。

芳子 【評価の表明】うん、きれい。でも、ちょっとおとなしいんじゃないかな。

店員 【見解の表明】そうですね。やはり、あちらの赤の方がおきれいでしから。

芳子 【見解の表明】張さん、せが高いから、大きい模様の方が似合うんですよね。

店員 【行為の合図】ちょっと、帯を合わせてみましょうね。(去る)

パチャリー、寄ってくる。

張 【情報叙述の要求】芳子さんは着物を着ることがありますか。

芳子 【情報の叙述】いいえ、ほとんどありませんね。お正月にも着ないし。成人式の時に着ましたけど。

張、パチャリー、それぞれ鏡に姿を映してみる。

場面(5) 張、パチャリー、それぞれ選んだ振り袖を着て帯をあて、鏡にみとれている。

芳子 【感想の叙述】うーん、二人とも、いいですね。

パチャリー (店員に) 【情報提供の要求】これは、振り袖っていうんですか。

店員 【情報の提供】はい。こういう(袖を持ち上げる)袖の長いのが振り袖で、お嬢さんがお召しになるんですね。あと、留め袖とか、訪問着とか、付け下げとか、(芳子に)いろいろございますけど。

芳子 【感想の叙述】うーん、どう違うのか全然知らないなあ。

パチャリー (芳子に) 【行為の勧奨】日本文化、勉強してください。

芳子、舌を出し、首をくめる。

登場人物 エレン・ソウザ クラウディア・ロッシ 池田洋子 販売促進部長

場面(1) 3月中旬の平日、昼休み。ヤングトラベル企画課オフィス。エレン、クラウディア、デスクで弁当を食べている。他の社員2~3人、それぞれの席で食事をしたり新聞を読んだりしている。

クラウディア 【情報の叙述】それで、スキーカー場に着いたんですけど、次の朝、熱が出てしまって。

エレン 【説明の要求】ええ？ ひどい熱？

クラウディア 【事情の説明】計ってみたら、8度3分あったんです。

エレン 【情報叙述への共感】ほんとお。じゃあ、スキーなんかとんでもないよねえ。

エレン、ちょっと時計を見て、弁当箱を片付けはじめる。

クラウディア 【情報叙述の要領】エレンさん、お弁当は自分で作るんですか。

エレン 【情報の叙述】ええ、そう。毎日じゃないけどね。【話題の開始】……ねえ、クラウディアさん、

クラウディア 【話題開始の受け入れ】はい？

エレン 【評価の表明】あのう、ですか、はいとかって、言わなくてもいいんじゃない。

クラウディア ああ、そうですか。【見解への同意】……丁寧すぎますね。

エレン うん。

クラウディア 【事情の説明】だけど、日本語はこれしか知らないんですよ。

場面(2) 同日午後1時5分。エレンとクラウディア、仕事を始めている。池田、ファックスを送っている。販売促進部長、入ってくる。

部長 【情報提供の要求】谷山くん、どこにいます？

エレン（顔を上げる）【情報要求への注目表示】あ、部長。【情報の提供】ええと、お客さまとお食事にいらっしゃいました。

部長（ちょっと首をひねる）あ、そう。【行為の指示】もどったら、電話するように言ってください。

エレン 【要求への了解】はい、わかりました。（部長を見送り、振り返ってクラウディアに）【見解表明の要求】ねえ、今の、いらっしゃいましたでよかった？

クラウディア 【見解の表明】さあ……。行っております、かなあ。

池田、向こうの方でにやにやしている。

エレン 【見解表明の要求】部長って、ソトの人？（二人、顔を見合わせ、首をかしげる）

池田（二人の方へ近づいてきながら）【見解の表明】日本人だってわかんないわよ、そんなの。

エレン、クラウディア、池田の後を追い、取り囲んで質問攻めにする。こたえに窮する池田。

{この場面で、エレンとクラウディアが質問している内容は、以下のようなもの}

エレン 部長は、目上だし、課長も目上ですよね。それから、お客さまも。お客さまは、部長より上ですか。課長より部長の方が上だから、やっぱりまいりますとか言うんですか。だけど、なんか変ですよね。

クラウディア 私たちはこの課にいるから、課長はウチの人でしょう。お客さまはソトの人だから、いらっしゃいましたけど、部長はどっちなんですか。部長はソトで課長はウチなのか、私たちはアルバイトだから、私たちがソトなんでしょうか。

登場人物 村井亜紀子 深沢良昭 宮田愛

場面(1) 3月中旬の平日午後4時ごろ。板橋経済大学構内の民謡研究会部室前。亜紀子、深沢を待っている。プレゼントを入れた包みを持っている。見回し、振り向いて後ろの掲示板に向かってぶつぶつ言い始める。

亜紀子 これ、(包みを見る)あげます。どうぞ。(首をかしげる)差し上げます。うーん、変ね。これ、卒業です、じゃない、卒業祝いです。プレゼント! うーんと、気に入ってくださるといいんですけど。ああ、若さがない! 気に入って、くれるかな。

宮田、掲示板の後ろから突然顔を出す。亜紀子、どぎまぎする。

宮田(笑う)【接觸の開始】深沢先輩ですか。(亜紀子、顔を赤くする。宮田、亜紀子の持つ包みを見て)【情報確認の要求】プレゼントですか。ネクタイかなあ。違うな。ベルト! いやっ、お財布! そうでしょう。

亜紀子(背中を向けたまま)【情報の確認】え、ええ。まあ。

宮田【意向表明の要求】深沢先輩、北海道の会社ですってえ? どうするんですか。

亜紀子【情報提供の拒絶】さあ。……別に。

宮田【意前確認の要求】いっしょに北海道行きたいでしょ。

亜紀子(ちょっとむっとする)【情報提供の拒絶】さあ。

宮田【意向表明の要求】結婚するんですか。

亜紀子【情報提供の拒絶】そんな。(にらむ)関係ないでしょ。

宮田(笑う)【接觸の終】もうそろそろ来ますよ。

宮田、部室に入っていく。後に残った亜紀子。亜紀子、口をとがらせて見送る。あたりを見回し、もう一度掲示板を振り向く。

亜紀子(道の方を見やる)来ないの? 早く来ないと、帰っちゃうから。(包みを見ながら)あと、10秒。10, 9, 8, 7, 6, 5, ……(だんだんゆっくりになる)

深沢(オフ)【接觸の開始】あれ、あっこ。

亜紀子、後方の道の方を振り向く。深沢が立っている。

亜紀子 あ。(ゆっくりと2, 3歩近づく)

深沢【説明の要求】どうしたの。

亜紀子 ええ。(目を落とし、包みを見る。包みを差し出して)【行為の合図】あの、これ……

深沢【説明の要求】え?(けげんな顔)

亜紀子【行為の合図】卒業、おめでとう。

深沢【感謝の表明】ああ。(ちょっと照れて)ありがとう。

笑顔の亜紀子。

登場人物 王崇梁 山田康浩

場面(1) 3月中旬の金曜日午後5時前。南海大学構内、国語学科研究室のある建物前。山田、建物から出てきて急ぎ足で門に向かう。王、横手の道から来て声をかける。

王 【接觸の開始】山田さん。

山田 (振り向く) 【接觸開始の受け入れ】ああ、王さん。

王 よかった。帰ってしまったかと思いました。

山田 え、何か用ですか。

王 【事情の説明】ええ、これ、(かばんから封筒に入った原稿を出す) 教育学部の論文集に出そうと思うんです。

山田 (受け取り、中を出してみながら) 【情報提供への注目表示】へえ、それはいいですねえ。

王 【行為の依頼】それで、山田さん、日本語の間違っているところをおおしていただけませんか。

山田 【要求】の拒绝【ええ……】いいんですけど……、僕は教育のこと、わからないからなあ。

王 【受諾の要求】いえ、日本語としておかしいところだけでいいですから。

山田 【説明の要求】いつまでですか。

王 【事情の説明】締め切りは来週なんです。

山田 今日は、金曜だから、急ぎますね。(考え込む) 【事情の説明】僕も、ちょっと書かなきゃならない原稿があるんですよ。読めるかなあ。

王 無理ですか。

山田 (自信なさそうに) 【要求】の拒絶【たぶん、火曜日んなるなあ。だれか他の人に頼んだ方がいいですよ。(原稿を封筒に戻し、返そうとする)

王 (手を出さず、うれしそうに) 【話題の収束】いえ、火曜日なら大丈夫です。(時計を見る) 【接觸の終】じゃあ、ちょっと急ぎますから、これで。(足早に立ち去りながら) よろしくお願ひします。

山田 (後姿に向かって) 【行為の勧め】ああ、一応読んでみますけど、だれか他の人にも頼んでくださいね。

王、ちょっと振り向いて手を振る。山田、見送り、困った顔をしながら門の方へ去る。

場面(2) 聖母の火曜日午後3時ごろ。南海大学国語学科研究室の前。王、廊下をやってきて、ドアの山田の所在を示す表示が「帰宅」のままなのを見て、戻っていく。

場面(3) 同日午後5時前。場面(1)と同じ建物前。王、向こうからやってきて、建物から出て行く山田を見つけ、声をかける。

王 【接觸の開始】山田さん。

山田 (振り向く) 【接觸開始の受け入れ】ああ、王さん。

王 【情報提供の要求】原稿、読んでいただけましたか。

山田 (すまなさうに) 【情報の提供】いやあ、僕の原稿、ゆうべ徹夜して書いて、今、やっと出したところなんです。(かばんの中から封筒を出し) 今から読ませてもらいます。

王 えっ、これから?

山田 ええ。

王 【事情の説明】だけど、私もあしたの朝まで出さなければならないんですよ。

山田 【説明の表明】えっ、あしたの朝……。今週中じゃなかったんですか。

二人、しばし無言

山田 【説明の要求】だれか、他の人には頼まなかつたんですか。

王 【事情の説明】ええ、山田さんが火曜日って言ったから……。

山田 (渋い顔) 【話題の収束】すいません。はっきり断ればよかったですね。(封筒を王に渡す)

王 【話題収束の受け入れ】ええ。……わかりました。(振り向き、立ち去る)

山田、見送り、門の方へ去る。

セグメント 30 さよならですか —伝える— (ストーリーIV 「恋人」(e))

登場人物 村井亜紀子 深沢良昭 道南情報人事課社員A 見送りの道南情報社員たち
道南情報新入社員たち 深沢の母 深沢の妹 新入社員の家族たち

場面(1) 4月上旬の平日、薄暮時。灯のともりはじめたオフィス街のはずれにある小さな公園。亜紀子、ランコに腰かけ、待っている。深沢、入り口の方から急ぎ足に近づいてきてちょっと手をあげる。

亜紀子 (立ち上がる) 【接觸の開始】お疲れさま。

深沢 【接觸開始の受け入れ】待った?

亜紀子 うん。ちょっとね。おなかすいちゃった。

深沢 うん。【話題の開始】……その前にね、ちょっと話があるんだ。(柵に腰かける)

亜紀子 え?

深沢 (足元を見ながら) 【情報の提供】実はね、札幌の本社へ行くことになっちゃったんだ。

亜紀子 【情報提供への注目表示】……(深沢の隣にかけ、足元に視線を落とす)そう。

深沢 (亜紀子の横顔を横目で見る) 【配慮の表明】……ごめん。

亜紀子 (下を向いたまま) 【説明の要求】いつまで?

深沢 【事情の説明】少なくとも、2、3年、だろうな。

亜紀子 【感想の叙述】じゃ、もう会えませんね。

深沢 (亜紀子を見る) 【見解への不同意】いや。そんな……。【意図の表明】休みが取れたら、東京に帰ってくるよ。……夏休みには、遊びにきて。

亜紀子 うん。【意図の了解】……(立ち上がる) そうね。飛行機なら、すぐよね。

深沢 うん。【意図の表明】……電話するよ。

亜紀子 (振り向き、つとめて明るく) 【話題の収束】お仕事、がんばってね。(深沢、うなずく)

場面(2) 数日後の日曜午前11時ごろ。羽田空港。離陸する旅客機。国内線出発ロビー。同伴の道南情報人事課社員が新入社員たちを集めている。見ている在京社員たち。遠巻きにしている見送りの家族たち。

社員A (時計を見る) 【行為のうながし】ええと、そろそろ入りましょうか。(搭乗券を配る)

新入社員たち、それぞれの見送り人たちのそばに寄り、ことばを交わす。深沢、あたりを見回しながら、母と妹のそばへ。

母 【配慮の表明】忘れ物はないの?

深沢 (そっけなく) ああ。(あたりを目で探す)

母 【配慮の表明】体に気をつけてね。

深沢 うん。(母に) 【接觸の終了】いってきます。(妹に) 【接觸の終了】じゃな。(妹、うなずく)

深沢、新入社員たちのところへ。社員A、一同をうながしてゲートに向かう。人々にはげます見送りの人々。

深沢、振り向き、2階の手すりに立って見下ろす亜紀子を見つけ、立ち止まり、見つめる。二人、見つめあう。亜紀子、胸の前で小さく手を振り、微笑んでみせる。深沢、うなずき、見上げながらゲートに消える。亜紀子、視線を落として振り返り、口を固く結び、まっすぐ前を見て歩きだす。

ユニット4「また会いましょう」

ユニット4の主な学習内容は、感情や評価など、主観的な内容の表現です。ここでは、自分の感情を表現するためのさまざまなやり方や、相手が表出した感情や希望を受けて、共感を示したり、場合によっては共感しない気持ちを表したりすることを学習します。

ユニット1から3までの中で、コミュニケーションを開始すること、伝達する内容をことばで表すこと、コミュニケーションの相手やその場の状況に応じてことばを使い分けることなどを扱ってきました。ユニット4では、それらに加えて、伝達することがらに対する評価、コミュニケーションの相手が述べた内容に対する評価、相手の人物に対する配慮などを伴って表現することを扱います。

ニュースを読むアナウンサーは、どんなに悲しいニュースでも、どんなに腹立たしいニュースでも、冷静に無表情に読むことを要求されます。ほほえましい話題の場合は、少しだけほほえみを浮かべることが許されるようですが、基本的に、自分の口から出る情報に対する自分の感情や評価を表すことが禁じられています。しかし、一般人の日常のコミュニケーションでは、そのような没感情な伝達態度は、非常に不自然なものと言えるでしょう。自分にとってよいことはうれしそうに、悪いことは残念そうに言うのが自然であり、また、相手にとってよいことは喜ばしそうに、良くないことは同情を込めて話すのが、礼儀とも言えます。けがをした恋人が早く回復した時に「よかった、早くよくなつて。」と言うには笑顔がふさわしく、亡くなってしまった先生について「おいくつでしたっけ。」と尋ねるには、沈痛な調子が選ばれなければなりません。このように、適切な音調や表情を用いて情報内容に対する話し手の態度を表現することも、わかりやすく効果的な伝達のために不可欠の技能です。

こうした表情豊かな態度は、必要な情報をやり取りする「用談」よりも、相手とことばを交わすことによって良好な人間関係を構築したり保持したりすることを目的とする談話、いわゆる「交話的(phatic)」な談話において、必要であり有効であると言えます。ユニット4で扱われている談話も、その多くは、必要な情報を述べる「情報の提供」ではなく、必ずしも必要でない情報を共感を求めながら伝達する「情報の叙述」です。こうした「おしゃべり」の談話を生き生きと自然に運用することは、実は、学習者が日本語の使用を通じて良好な人間関係を築くために非常に重要な能力で、日本語の話したことばの学習の中でも、重点的に扱われるべきであると思われます。

さらに、感情や評価をそのようにして自然に表現することは、「感謝の表明」「困惑の表明」といった「心情的」な談話や、「依頼」や「勧め」といった「動能的」な談話をより効果的にし、情報内容の伝達を目的とする「関説的」な談話をも、生気にあふれたものにするでしょう。「人間の言語」としての生きた日本語に近づくために、こうした感情・評価の表現をも、日本語学習のなかに取り入れることを試みてください。

なお、上で用いた「交話的」「心情的」「動能的」といった談話種別の名称は、Jakobson, R. 1960 'Linguistics and Poetics', Style in Language, Sebeok, T. A. ed., M.I.T. Press [川本茂雄他訳1973『一般言語学』、みすず書房] の言語機能分類によっています。これらの言語機能の名称を用いた談話種別の分類は、国立国語研究所『日本語教育映像教材 中級編 関連教材「伝えあうことば」4 機能一覧表』(大蔵省印刷局刊)の第2部で解説されているので、同書をあわせて参照してください。

セグメント 31 うまく書けました—筆で書く— (ストーリーI 「勉強」(1))

登場人物 張玉萍 パチャリー・ラタナーワン ミーチャ 沢村美津子

場面(1) 9月初めの休日午後。沢村家の座敷。張、パチャリー、ミーチャ、沢村に書道を習っている。「永」の字の手本を書く沢村の筆先。

沢村 (書きながら) 点は、小さな三角を書くように。横の線は、下ろして、筆の先を残して引きます。ここは、折れですね。縦の線は、筆の先が真ん中を通るようにして、一気に引きます。はねですね。これは、左下からやや右上に。それから、左へゆるく払います。まっすぐじゃなくて、少し丸くなりますね。こちらは、筆を下ろしてから、真っすぐに払って、今度は、だんだんに力を入れていって、ここで一度止めて、少しづつ少しづつ抜いていきます。

ホッと息をつき、顔を見合わせる3人。

場面(2) 「永」の朱筆の手本。沢村、張が書き終わるのを見ている。

張 (筆を置いて) 【見解表明の要求】どうですか。

沢村 【見解の表明】ええ、さすがにお上手ですねえ。立派な字だわ。

パチャリー 【評価の表明】ああ、だめ。うまくいきませんね。

沢村、張、パチャリーの方を見る。

沢村 (張に) 【行為の指示】張さん、なにか好きなものを書いてみてくださいな。(パチャリーが書いた字を見る) ああ、そうですねえ。(新しい紙を置いて) 【行為の指示】ちょっと筆を持ってみてください。

パチャリー、筆をやや寝かせて持つ。

沢村 【評価の表明】あ、筆はね、もっと真っすぐに。寝かさないでくださいね。

パチャリー (構えなおして) 【見解表明の要求】こうですか。

沢村 【評価の表明】そうそう。【行為の指示】それで、一度に下ろさないようにして、動かしてみてください。

パチャリー (首をかしげながら) 【見解表明の要求】こんなふうですか。(書いてみせる)

沢村 【評価の表明】うそそ。それで、力を入れるところは、しっかり力を入れて。(指しながら) こことか、こことかね。

パチャリー、うなずく。

ミーチャ 【見解表明の要求】先生、縦の線が、どうしても曲がってしまうんです。

沢村、ミーチャの隣に移る。

沢村 【見解の表明】ああ、勢いよく書いてしまえばだいじょうぶですよ。

ミーチャ (不安そうに) そうですか。

張、「ゆめ」を書きおわっている。

張 【見解表明の要求】先生、ちょっと見ていただけますか。

沢村、張の隣に来る。

沢村 【説明の要求】あら、仮名ですか。

張 【事情の説明】はい。私には、やはり仮名がむづかしいんです。

沢村 なるほどね。【評価の表明】でも、うまく書けていますよ。

場面(3) 沢村、草書を書き上げる。顔を見合わせる3人。

パチャリー 【説明の要求】あのう……これ、なんて書いてあるんですか。

画面、沢村の書の右にテロップで「草花」。

沢村 (声のみ) 【事情の説明】くさ、ばな。

感心する3人。

登場人物 王崇梁 山田康浩 朴海煥 参列者たち

場面(1) 9月初めの火曜日午前5時43分。王の寝室。王、ベッドで眠っている。電話が鳴る。王、目を開けず、手を伸ばして受話器を取る。

王 もしもし。
朴 朴です。朝早くごめんなさい。
王 ああ。
朴 【情報の提供】内田先生がね、
王 内田先生?
朴 さっき、亡くなつたんです。
王 えっ? (目を開ける)
朴 3時20分に……。
王 (枕元の時計を見る) 【説明の要請】……どうして。
朴 【事情の説明】心臓です。それで、……。

場面(2) 翌水曜日夕刻。故内田助教授の自宅門前。通夜のため幕が張られ、提灯などが置かれている。テントの中に作られた受付に王など4~5人。香典を渡し、記帳する会葬者たち。略礼服に黒いネクタイの山田、記帳を済ませ、台を離れる。王、立ち上がって話しかける。

王 【接觸の開始】どうもありがとうございます。
山田 【配慮の表明】この度はどうも……。びっくりしました。
王 私もです。
山田 【行為の申し出】何かお手伝いすることがあつたら、言ってください。
王 ありがとうございます。【行為の指示】朴さんに聞いていただけますか。中にいますから。
山田 はい。
山田、焼香に入る。

場面(3) 室内。正面に祭壇。経を読む僧侶。並んで座る親族。香炉のところで次々に焼香する参列者たち。

場面(4) 通夜の済んだ式場。王、山田、片付けを終え、玄関から出てくる。朴、庭から祭壇を見つめている。

王 【感謝の表明】山田さん、手伝わせてしまって、すいませんでした。
山田 ああ、いえ。(朴に) 【配慮の表明】朴さん、お疲れさま。
朴 なんだか、本当に疲れました。
王 (山田に) 【事情の説明】朴さんは、ゆうべから寝ていないんですよ。
朴 【事情の説明】いや、それより、……なんだか、頭の中がからっぽになったみたいで。
山田 【情報叙述の要求】内田先生は、朴さんの指導教官だったんですね。
朴 はい。【困惑の表明】いい先生だったのに……。これからどうすればいいか……。
山田 【情報叙述の要求】おいくつでしたっけ。
王 【情報の叙述】まだ、49歳。早すぎますよ。
山田 【感想の叙述】残念ですねえ。本当に惜しいことです。
朴 【感想の叙述】まるで悪い夢みたいです。
王 【配慮の表明】朴さん、元気出して。
朴 うん。
王 内田先生のためにもね、がんばらなくちゃ。
山田、王に向き直る。朴、祭壇を見る。
山田 【情報提供の要求】王さん、ずっと気になってたんですけど、……いつかの原稿。
王 【情報の提供】あ、印刷のときに見ていただきました(祭壇を見る) ……内田先生に。
山田 (祭壇を見る) 内田先生に……。
朴、天を仰ぐ。夜空に星が光る。

登場人物 エレン・ソウザ クラウディア・ロッシ

場面(1) 並んだスツールに腰かけて、エレンとクラウディア、何やら話し合っている。エレン、アップ。

エレン 【情報の叙述】夜、電車に乗るとね、

クラウディア (オフ) ええ。

エレン 酔っ払ってる人がいるじゃない。大きな声を出したりい、人にぶつかったりねえ。【感想の叙述】あれって、なんか、はずかしいよねえ。自分のうちで飲むならね、いんだけど。

クラウディア 【見解への同意】パーティーとかね。

エレン そうそう。プライベートな場所なら、問題ないけど。【感想の叙述】こわいと思うこと、ない? 若い人は、あんまりいないかなあ。学生は、ときどきいるよね。でも、やっぱり、おじさん。中年の人ね。今の若い人が中年になったら、どうなるのかな。

場面(2) クラウディア、アップ。

エレン (オフ) 【見解表明の要求】仕事はどう?

クラウディア 【感想の叙述】うん、まあ、楽しいですね。

エレン そう。

クラウディア ええ。みんな、親切だし。

エレン 【情報叙述の要求】困ったことは?

クラウディア 【情報の叙述】ええと、仕事の時間がね、

エレン 時間?

クラウディア 仕事が始まる時間が決まってますけどお、

エレン ああ。

クラウディア 社員の人は、なかなか始めませんよねえ。

エレン まあねえ。

クラウディア そのかわり、すごく遅くまで働くでしょう。

エレン 残業ねえ。

クラウディア それから、付き合いとか。

エレン そうねえ。……【事実の指摘】でも、わたしたちは、アルバイトだから。

クラウディア ええ。先に帰りますけどお、

エレン うん。

クラウディア 【感想の叙述】ちょっとお、悪いような気がして。

エレン ああ、そうか。

クラウディア 帰りにくいんですよね。

場面(3) 話し合う二人。

エレン 【感想の叙述】お刺身ってね、だめなの。

クラウディア 【感情への注目表示】食べられないんですか。

エレン ええ。なんか、気持ち悪くて。

クラウディア そうですか。

エレン 口に入れると、冷たくて。

クラウディア うーん、まあねえ。

エレン それから、変なにおいがするでしょう。

クラウディア 【見解への不同意】たしかに、ちょっとにおいはあるけどお。

エレン 【見解の表明】生の魚はネコのえさ!

クラウディア 【困惑の表明】おいしいのになあ。

エレン 【感想の叙述】他のものは、たいてい好き。

クラウディア 【話題の収束】まあ、どこの国にも、変わった食べ物ってあるから。

エレン 【話題収束の受け入れ】ああ、人によっても違うかもしれないね。

話し合う二人。

登場人物 村井亜紀子 深沢良昭

{このセグメントの音声は、主音声(左チャンネル)に現場の音、副音声(右チャンネル)には、この翌日に深沢が亜紀子にかけた電話の音声が入っています。}

画面・主音声	副音声
<p>場面(1) 9月中旬、平日の夕刻。都内のあるショッピングモール。地下1階が広場になっており、その向こうに地下1階から地上2階までのデパート。各階の入り口の前に外廊下。4時3分。亜紀子、バッグを持ち、1階の外廊下を小走りに歩いてくる。デパート入り口付近で立ち止まり、前後やデパート店内を見回す。</p>	<p>(電話の声) 呼び出し音。 亜紀子 はい、村井でございます。 深沢 あ、あのう深沢ですが、亜紀子さん……。 亜紀子 あ、……。 深沢 【接触の開始】あっこ? 亜紀子 【接触開始の受け入れ】……はい。 深沢 よかった。【陳謝の表明】すぐに電話できなくて、ごめん。 亜紀子 【説明の要求】きのう、4時だったよね。 深沢 【事情の説明】うん。ちょっと、遅れちゃったんだ。5分ぐらい。 亜紀子 【事情の説明】私も2、3分遅れたけど、1階の入り口で待ってたのよ。 深沢 うん。【事情の説明】それがさ、僕が、場所を間違えたらしい。 亜紀子 え? 深沢 いちばん下がさ, 亜紀子 ええ。 深沢 1階だと思ったんだ。 亜紀子 【情報の提供】ああ、いちばん下は、地下1階なのよ。 深沢 【事情の説明】うん。全然気がつかなかつたんだ。 亜紀子 そう。 深沢 時々は、上の方も見たりしたんだけどね。 亜紀子 【事情の説明】わたしもね, 深沢 うん。 亜紀子 気になって、下へ見にいったの。 深沢 ああ。 亜紀子 けっこう動いてたから。 深沢 ああ。 亜紀子 たぶん、その時ね。 深沢 うん。そうだね。 亜紀子 【感想の叙述】あーあ。が一つかり。 深沢 うん。 亜紀子 せっかく楽しみにしてたのに。 深沢 【事情の説明】それでね, 亜紀子 【情報提供の要求】今、札幌? 深沢 いや。それがね, 亜紀子 東京なの? 深沢 【情報の提供】東京だよ。 亜紀子 【意向表明の要求】じゃ、会える? 深沢 【情報の提供】今、病院なんだ。 亜紀子 えっ?</p>
<p>場面(2) 4時6分。深沢、書類カバンを持ち、走ってくる。スロープを下り、地下1階の広場を通ってデパート入り口付近で周囲を見回す。</p>	
<p>場面(3) 4時19分。亜紀子、手摺りに近付き上の階を見上げ、下の階を見下ろし、廊下の左右を見て、下手へ去る。深沢、ふたたび広場中央へ出て周囲と上階を見回し、カバンから手帳を出し、めぐりながら広場を横切り、画面手前に消える。亜紀子、地下1階の広場中央へ。周囲と上階を見渡してから時計を見る。</p>	
<p>場面(4) 4時42分。深沢、地下1階のデパート入口に戻っている。1階のデパート入り口付近にもどっている亜紀子、バッグからイヤホンを出して耳にはめ、スイッチを入れる。</p>	

激しいロックが鳴りだす。亜紀子、歩きだす。深沢、広場中央へ来て見回し、去る亜紀子を見つける。急いで見回し、下手へ走り去る。亜紀子、足早に歩いていき、深沢、後を追って走りながら、大声で呼ぶ。亜紀子、気付かず、道に出る。深沢、後を追って道に飛び出し、トラックにはねられる。亜紀子、気付かずに歩き続ける。

登場人物 男の子 池田洋子 女の子

場面(1) 夜8時すぎ。子供部屋。男の子、ベッドの上にすわり、マンガを読んでいる。ついていたスタンドが消える。

男の子（見回す）お母さん、スタンドが消えた。

母親（オフ）なあに？ 早く寝なさいよ。

スタンドがつく。

男の子 ついたあ。

母親 もうスタンドを消しなさい。

男の子（目を上げず）うーん。

窓が開き、閉まる。男の子、ちょっと窓の方に目をやり、またマンガを読む。机の上のカエルの筆立てが動く。花瓶の花が折れる。壁にかかっていた帽子が落ちる。

男の子 帽子が落ちた。

母親 早く寝なさい。

男の子、舌打ちをしてため息をつき、ベッドから足だけ下ろす。女の子が現れる。女の子、机の上にあったミルクのカップを滑らせ、傾ける。残っていたミルクが男の子のパジャマのひざにこぼれる。男の子、気が付いて、手で触り、あたりを見回す。女の子、部屋のすみに立っているスキーを倒す。大きな音。ドアが開き、母親、部屋に入ってくる。

母親（詰問調）何してるので。（スキーを起こす）あんたが倒したの？

男の子 違うよ。倒れたんだよ。

母親（帽子を拾う）これも落として。

男の子 僕じゃないよ。

女の子、机の上の豚の貯金箱をこわす。

母親 どうして壊すの。

男の子 僕、壊さない。自然に壊れたんだよ。

女の子、壁に掛かっているナップザックのひもを切って落とす。

男の子 ほら、切れた。

母親（おびえた声）どうして。だれが切ったの。

女の子、オルゴールの蓋を開ける。オルゴールが鳴りだす。母親、びくっとして、おそるおそるオルゴールを閉め、ナップザックを拾って顔を上げる。鏡に映った自分の後に女の子が映っているのを見て、ぎょっとして振り向く。女の子がうっすりと見える。母親、鏡と女の子を見比べる。女の子、ほほえみかける。母親、気を失いたおれる。

男の子 お母さん！

男の子、母親の体をゆすり、立ち上がると、鏡に映った女の子が目に入る。振り向くと、女の子がうっすりと見える。

男の子（つぶやく）出た……。

女の子、ほほえみかける。男の子、つられておずおずとほほ笑みを返す。

セグメント 36 インタビュー — 聞き手と話し手 — (ストーリー I 「勉強」(j))

登場人物 張玉萍 パチャリー・ラタナーワン ミーチャ 武田芳子

場面(1) 9月中旬の日曜午前9時すぎ。東京近郊のハイキングコース。張、パチャリー、ミーチャ、芳子、林の中を歩いてくる。

場面(2) 川原。一同、火を起こし、バーベキューの最中。芳子、ニンジンを持ち、しゃべり出す。

芳子 【話題の開始】ええ、それでは、ここでみなさんに入erviewをしてみましょう。

張 やあだ、芳子さん、それ、なに？

芳子 (すまして) 【情報叙述の要求】ええ、みなさんは、それぞれ大学に入学して、6ヵ月たったわけですが、大学の生活はいかがでしょうか。それでは、まず張さん。(張にニンジンを向ける)

張 【感想の叙述】あ、わたくしですか。はい、楽しくやっております。

芳子 【情報叙述の要求】授業はむずかしいですか。

笑いながら見ているミーチャ、パチャリー。

張 【情報の叙述】そんなにむずかしくはありませんけど、日本人の名前とか、歴史の関係のことばとか、(ミーチャ、うなずいている)

ミーチャ 【見解への同意】固有名詞ねえ。

張 (ミーチャに) そう。わからないよねえ。

芳子 【話題の収束】ありがとうございました。【情報叙述の要求】それでは、パチャリーさんはいかがですか。(ニンジンをパチャリーに向ける)

パチャリー ええ、なんですか。

芳子 【情報叙述の要求】大学の方は。

パチャリー 【情報の叙述】毎日行っています。

芳子 【情報叙述の要求】いや、その、勉強はむずかしいですか。

パチャリー 【情報の叙述】はい、むずかしいです。(芳子、ニンジンを自分に向けかけるが、パチャリーが話し続けるのでまたニンジンを向ける) それから、寮が遠くて、大学へ行くだけで疲れてしまします。

ミーチャ 【情報の叙述】わたしの下宿はね、

芳子 (ミーチャを手で制し、パチャリーにニンジンを近づける) 【情報叙述の要求】友達ができないって、言つてましたね。

パチャリー 【情報の叙述】んー、日本人の大学生は、授業が終わると、すぐに帰つてしまつて、

芳子 ああ。

パチャリー 話せないんです。

芳子 そうですか。(張、話したように手をあげる) 【情報叙述の要求】その辺、張さんはいかがですかあ。

張 【感想の叙述】それにね、あまり授業に出ない学生がいるんですね。ちょっと驚きました。

ミーチャ (乗り出す) 【見解への同意】ああ、そうそう。(芳子、ニンジンをミーチャに向ける) うちの大学も同じです。

芳子 【説明の要求】あんまり勉強してない。

ミーチャ (とぼける) 【情報要求への指継】さあ、それはよくわかりません。

パチャリー 【感想の叙述】でもね、(芳子、ニンジンをパチャリーに向ける) 悪いけど、日本の大学生は、外国のこと、あまり知らないんじゃないかなと思いますね。

芳子 外国のこと？

ミーチャ 【情報の叙述】ううう。こないだもね、

芳子 (ミーチャに) 【行為の制御】ちょっと待って。【行為の指示】パチャリーさん、どうぞ。

パチャリー 【情報叙述の要求】たとえば、タイはどこにあるか、知っています？

芳子 (自信なさそうに) 【困惑の表現】ええと、だいたい。

ミーチャ (神妙に) 【評価の表明】うん。もっともっと勉強しなければ。

一同、笑う。ミーチャ、ニンジンを取り、立ち上がる。

ミーチャ はい、歌います。

歌うミーチャに拍手する3人。

セグメント 37 まだ痛いですか — お見舞い — (ストーリーIV「恋人」(g))

登場人物 村井亜紀子 深沢良昭 宮田愛 看護学生 広川猛 金沢省二

場面(1) デートのすれ違いの翌々日、午後1時すぎ。深沢が入院中の病室。深沢、ベッドに寝ている。左足にギブス。左の肩から上腕に包帯。頭にも包帯。向かい側のベッドに広川と金沢。宮田、花束を持ち、病室に入ってくる。

宮田 【接觸の開始】せーんぱい。

深沢 【接觸開始の受け入れ】ん？ ああ、君か。

宮田 ええ、授業、さぼって来ちゃった。（花束を枕元に置きながら）【配慮の表明】どうですかあ。

深沢 うん。まあまあ。

宮田（いすにかけながら）【情報叙述の要求】まだ、起きられないんですか。

深沢 【情報の叙述】あと二~三日は歩いちゃいけないって。

宮田 【情報叙述の要求】退院は、いつごろになるんですか。

深沢 【情報の叙述】あと十日ぐらいじゃないかなあ。

宮田（おっかぶせる）【情報叙述の要求】ねえ、どうして事故にあったんですか。

深沢 【情報の叙述】え、いや、……ちょっと、待ち合わせに遅れそうになって。

宮田 ふーん。

看護学生、入ってきて、金沢に郵便をわたし、深沢のベッドに来る。

看護学生 【情報の提供】深沢さん、明日、もう一度検査をしますから、午前中に。

深沢 【情報提供への注目表示】はい。

看護学生 【意志の表明】9時半ごろに、呼びに来ます。

深沢 【意向への了解】わかりました。

看護学生、出ていく。亜紀子、花束を持ち、病室の入り口に立つ。宮田、気が付き、肩をくぬぎ、深沢に目で知らせる。亜紀子、とまどいながらドアを入り、広川・金沢に軽くあいさつし、深沢のベッドに近づく。

宮田（立ち上がりながら）【接觸終了】それじゃ、あたしは。

深沢 【接觸終了の受け入れ】ああ。……どうもありがとう。

宮田、亜紀子におじぎして、後ろをすり抜け、出ていく。亜紀子、見送る。

深沢（いすを指す）【行為のうながし】すわって。

亜紀子 【行為の合図】お花。（腕の包帯を見る）あ、こっち、おいとくわね。（枕元の台におき、すわる）

【説明の要求】どこ、けがしたんですか。

深沢 【事情の説明】ああ、（そこで持ち上げながら）腕は、たいしたことない。足は、骨が折れてて。

亜紀子 痛いの？

深沢 うん。まだ、ちょっとね。

亜紀子（頭の包帯を見る）頭は？

深沢 あ、これはちょっと切れただけ。

亜紀子 【陳謝の表現】ごめんなさい。わたし、全然気が付かなかつた。

深沢 【感情への注目表示】いやあ、僕が間違えたせいだから。

見つめ合う二人。興味津々で見守り、顔を見合させる広川と金沢。

登場人物 王崇梁 山田康浩

場面(1) 9月下旬の木曜日、午前10時すぎ。南海大学正門から構内への並木道。山田、構内に向かって歩いている。横手の道から出てきた王、呼び掛ける。

王 【接觸の開始】山田さん。

山田 (振り向く) 【接觸開始の受け入れ】ああ、おはようございます。

王 (追いついていっしょに歩きだす) 【感謝の表現】お葬式の時は、どうも。

山田 【感情への注目表示】いやあ。いろいろ大変だったでしょう。……【情報叙述の要求】研究室の整理なんかどうするんですか。

王 【情報の叙述】ええ、林教授がなさるそうです。

山田 【情報叙述の要求】内田先生が指導なさっていた学生は?

王 【情報の叙述】他の先生方が見てくださるそうですけど、朴さんなんか、すっかり元気をなくしてしまって。

山田 【情報提供への注目表示】そうですか。内田先生、いい先生だったようですね。

王 【情報の叙述】ええ、……私の例の論文もね、(山田、王を見る) 読んでくださって、これは非常におもしろい、いい観点だって、(山田、うなずく) 励ましてくださったんですよ。

山田、うなずく。やや間。

王 【事情の説明】国にとって、人がいちばん大切だと思うんです。だから、教育学をやろうと思ったんです。……勉強しているうちに、学生を実際に教える先生を育てることがとても重要だと気がついたんです。

山田 【説明の要求】それが、教育行政っていうわけですね。

王 そうなんです。【意志の表明】わたしはね、国へ帰ったら、学校の先生たちのために研修のシステムを作りたいんです。新しい教え方を勉強できるようにね。

山田 【意向表明への注目表示】……大変な仕事なんなるでしょう。

王 【意志の表明】まあ、夢なんですよ。

山田 【意向表明への注目表示】ふーん。大きな夢ですよねえ。

二人、立ち止まる。

山田 【説明の要求】王さん、今日は授業ですか。

王 【事情の説明】いえ、朴さんが話があるっていうんで。(時計を見る) 11時に会う約束です。

山田 【提案の提示】じゃ、話が済んだら、僕の部屋に来ませんか。

王 【要求への了解】ええ。後でお電話します。

二人、左右に別れて行く。

セグメント 39 決めました — 決意を述べる — (ストーリーⅡ「友達」(k))

登場人物 王崇梁 山田康浩 朴海煥

場面(1) 前セグメントと同日午後4時ごろ。画面、先の学内並木道。音声は、電話の王の声。

王 (やや困った調子) 【行為の依頼】山田さん、……ええと、朴さんの話……できたらいいしょに聞いてもらいたいと思うんですが。……今、エスパワールにいるんです。来ていただけますか。……

場面(2) 後刻、スナック・エスパワールの店内。すみの席の壁ぎわに朴、向かいに王、王の隣に山田、座っている。

王 (山田に) 【事情の説明】朴さんはね、この大学をやめるって言うんです。

山田 (朴を見る) へえ。

朴 【意志の表明】来月からアメリカへ行きます。(山田、朴をみつめる) 【事情の説明】シカゴの近くの私立大学なんんですけど、いい先生がいるんです。

マスター、山田の前にアイスティーを置き、去る。

山田 【説明の要求】朴さんのテーマは、どんなことでしたっけ。

朴 【事情の説明】ええ。……教育には、必ずことばが使われるでしょう。そのことばのことを研究したいんです。

山田 【説明の要求】ええと、言語教育っていうことですか。

王 【事情の説明】いえ、数学とか理科とか社会とか、ね。(朴に同意を求める)

朴 【事情の説明】数学を教えるときに、どんなことばで説明すればいいか。どんなふうに表現すればわかりやすいか、といったことです。

山田 【情報提供への注目表示】なるほど。教育の手段としての言語。

3人、うなずき合う。

朴 【事情の説明】それを研究していらっしゃったのが、内田先生でした。

山田 【説明の要求】……他に指導してくれる人はいないんですか。

朴 【事情の説明】この大学ではむずかしいと思います。国へ帰ろうかとも思ったんですけどね。アメリカは、そういう研究が進んでるんですよ。

山田、納得した顔。王、寂しそう。

場面(3) 話す3人。音声はオフ。

山田 【感想の叙述】朴さんに会えなくなると、寂しいなあ。

王 【感想の叙述】ええ、もっといろんなことを話したかったなあ。

朴 【感情への注目表示】わたしも残念ですけど、……でもね。……【意志の表明】また日本にも来ますよ。

山田 【意向の表明】せっかく友達になったんだから。これからもね。

王 【意向の表明】ええ、ずっと友達ですよね。

登場人物 村井亜紀子 深沢良昭 広川猛 金沢省二 看護学生

場面(1) 9月下旬の金曜日、午前11時すぎ。深沢が入院していた病室。深沢、松葉杖をつき、相部屋の広川と金沢のベッドに近づく。

深沢(広川に)【接觸の終了】いろいろお世話になりました。

広川【接觸終了の受け入れ】おめでとう。おれ、まだしばらくかかりそうだよ。

深沢 お大事に。(金沢に)【接觸の終了】金沢さんも、お大事に。

金沢【感情の叙述】深沢さん、うらやましいよ。僕ももう退院したいなあ。

深沢【感情への注目表示】焦らないほうがいいよ。ゆっくり治してね。

深沢、自分のベッドに近づく。看護学生、入ってくる。

看護学生【配慮の表現】あ、深沢さん、おうちの方はいらっしゃらないんですか。

深沢【感情への注目表示】ええ。大丈夫ですよ。

看護学生 そうですか。【行為の申し出】じゃあ、荷物、持ちましょう、玄関まで。

深沢【行為の制止】あ、いや、いいんですよ。

看護学生、荷物を取り、入り口に向かいかける。亜紀子、入り口に立つ。

看護学生(2人を見比べる)【意向への了解】あ、なんだ。じゃ、いいですね。(荷物を置き、出ていく)

深沢(後ろ姿に)【接觸の終了】お世話になりました。

亜紀子、広川と金沢にあいさつしながら、深沢に近づく。

亜紀子【説明の要求】具合はどう?

深沢【事情の説明】うん、だいじょぶ。

亜紀子 よかった。【行為の合図】じゃ、荷物。(手を延ばす)

深沢、よけようとしてよろける。亜紀子、脇から支える。深沢、亜紀子の肩に手を回す形になる。

広川 ほおー。

金沢(同時に)わあー。

深沢、亜紀子、そちらを見て照れる。

深沢【行為のうながし】行こう。

亜紀子、荷物を持って廊下に出る。

深沢(広川・金沢に)それじゃ、お大事に。

広川、会釈する。金沢、ちょっと手を上げる。深沢、廊下に出て亜紀子とうなずきあい、去る。

場面(2) 病院玄関前にとめた亜紀子の車。深沢と亜紀子、ドアから出てくる。

亜紀子【感想の叙述】ほんとに、心配したんだから。

深沢【感情への注目表示】いやあ、失敗したよ。

亜紀子(荷物を後部座席にのせながら)【感想の叙述】でも、よかった。早くよくなって。

亜紀子、深沢を助手席に乗せ、ドアを閉め、車の後ろを回って運転席に座る。

亜紀子(シートベルトをしめながら)【冗談】わたしと付き合うのは骨が折れるでしょ。

深沢【感想の叙述】冗談じゃなくてさ。……これからもねえ。どうなるかなあ。

亜紀子【見解の表明】大丈夫よ。信じてるから。(エンジンをかける)

深沢 うん。……そうだね。

亜紀子 だいじょぶよ。

車、走り出す。

場面(3) 都心への道を走る車。

日本語教育映像教材 初級編 「日本語でだいじょうぶ」

利用の手引き（全4ユニット合冊）

平成8年（1996年）2月29日

作成 国立国語研究所日本語教育教材開発室

〒115 東京都北区西が丘 3-9-14

TEL 03-5993-7661(直通)

配布用資料（非売品）
